

令和 3 年 度

地域との協働による高等学校教育改革推進事業
プロフェッショナル型

研究実施報告書

〈第 3 年次〉

農工維新！田布施あい³プロジェクト
～地域とともに未来を切り拓く ジェネラリストの育成～



山口県立田布施農工高等学校

はじめに

校長 葉山雅基

本校は、平成22年に山口県立田布施農業高等学校と山口県立田布施工業高等学校が再編統合され、山口県では唯一、農業と工業の両学科を設置した学校として開校しました。全校生徒は368人、農業系学科の生物生産科、食品科学科、都市緑地科と工業系学科の機械制御科の4学科を設置した専門高校です。

めざす学校像として、「ものづくり学習を通して地域社会で活躍する将来の職業人を育成する学校」を掲げ、地域連携・貢献活動をはじめ、様々な各学科特色のある学習活動を展開し、専門性を高めています。また、開校以来「未来を拓く農業と工業のコラボレーション」をコンセプトに産業基礎や総合実習、課題研究等において学科の枠を超えた体験学習や研究活動にも積極的に取り組んでいます。

さらに、令和元年度から、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業 類型Ⅲプロフェッショナル型」において、以下の3つの「あい」の相乗効果を期待して命名した「農工維新！田布施あい³（キュービック）プロジェクト～地域とともに未来を切り拓くジェネラリストの育成～」に取り組んでおり、地域をフィールドとした活動を推進してまいりました。

1年目：地域を見て知る：見る（Eye）のあい

2年目：地域のこと（課題）を自分ごととして考える：自分（I）のあい

3年目：地域を愛し、地域に貢献する：愛（AI）するのあい

本年度も、新型コロナウイルス感染症の影響から多くの計画が中止・変更を繰り返す非常事態の中での取組となりましたが、生徒たちは諦めることなく、「何ができるか、どうしたらできるか」を試行錯誤しながら実践し、逞しく成長しました。中でも、昨年度活動の中から生まれた「生徒あい³（キュービック）委員会」もより自主的・能動的な活動を展開し、地域から大きな期待を受けているところです。

本事業は本年度で終了となりますが、今後もコンソーシアムの仕組みを活用しながら、関係各所の支援の下、地域と連携した教育活動を積極的に発展・展開し、「地域課題の解決等を図る探究的な学び」を充実させ、「地域の担い手として幅広い知識・技術を有する人材」・「Society5.0時代に柔軟に対応できる創造力を有する人材」・「世代を超えて他者と協働して課題を解決できる人材」を育成する「田布施農工式キャリア教育」を確立させていきたいと考えています。そして、地域に愛着を持ち、将来の地域を支え、活躍する職業人を育成し、「地域に愛され、必要とされる学校」となるよう、より充実した教育活動を推進してまいります。

最後になりましたが、本プロジェクトの推進に御指導・御支援を賜りました地域の皆様をはじめ、関係大学・企業・事業所の皆様、文部科学省及び山口県教育委員会の皆様並びに運営指導委員及びコンソーシアム委員の皆様にご心よりお礼を申し上げますとともに、本校生徒の皆さんのさらなる成長と飛躍を期待して巻頭のあいさつとさせていただきます。

目 次

第1章 研究の概要

1	イメージ図	1
2	研究の背景	2
3	研究開発課題名（テーマ）	4
4	研究目的	4

第2章 研究の計画

1	令和3年度の実施計画	7
2	実施体制	11

第3章 研究別概要

1	1年生の取組	15
2	2年生の取組	17
3	3年生の取組	19
4	各科3年間の取組	27
5	4学科連携の取組	35
6	生徒あい ³ 委員会の取組	37
7	普通教科の取組	39

第4章 研究の効果とその評価

1	成果目標・活動指標の達成度	41
2	本事業の効果測定	46
3	進路実績から見た意識変化	51
4	コンソーシアムの役割と意識の変容	52
5	保護者による評価	54
6	地域での取り組み実績	56
7	今後の方向性	66
8	地域の未来を支えるカリキュラム	68

第5章 運営指導委員及びコンソーシアム委員からの提言

- | | | |
|---|-----------------------------|-----|
| 1 | 運営指導委員からの意見・・・・・・・・・・・・・・・・ | 7 2 |
| 2 | コンソーシアム委員からの意見・・・・・・・・・・・・ | 7 4 |

第6章 各種資料

- | | | |
|---|----------------------------|-----|
| 1 | アンケート一覧・・・・・・・・・・・・・・・・ | 8 3 |
| 2 | ループリック評価・・・・・・・・・・・・・・・・ | 8 6 |
| 3 | 大会（発表）参加（入賞）一覧・・・・・・・・・・・・ | 8 8 |
| 4 | 教育課程表・・・・・・・・・・・・・・・・ | 9 1 |
| 5 | 成果概略図・・・・・・・・・・・・・・・・ | 9 4 |
| 6 | 校内資料・・・・・・・・・・・・・・・・ | 9 7 |

第1章 研究の概要

1 イメージ図

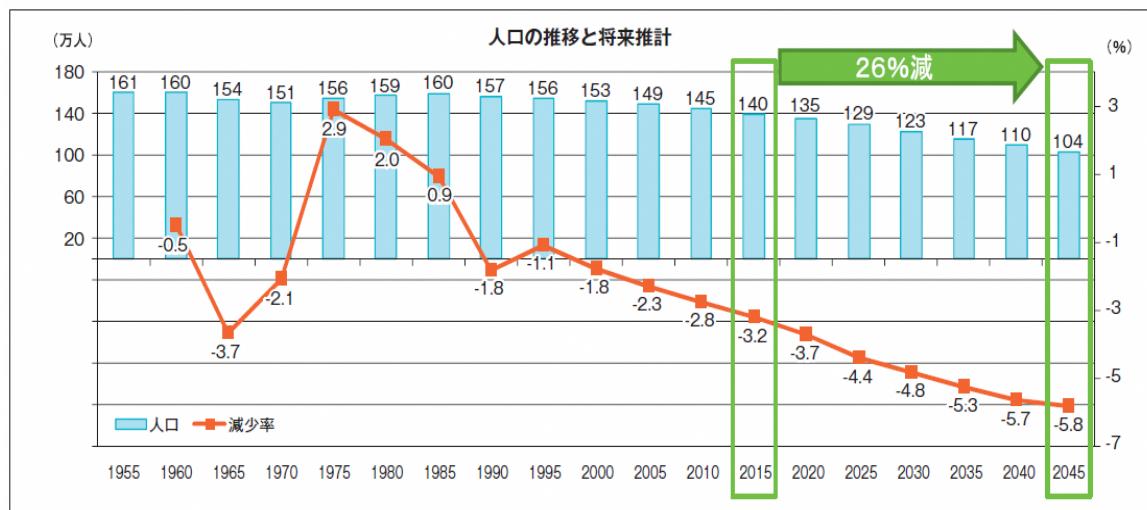


2 研究の背景

(1) 本県の状況

本県の総人口は、1985年の160万人から一貫して減少が続いており、高齢化率も既に30%を超えるなど、全国より早いペースで人口減少、高齢化が進行している。2015年から2045年までの30年間で、本県の総人口は更に26%減少し、約103万6千人に、14歳以下の年少人口についても、更に36%減少し、約10万9千人と予測される。特に、中山間地域では、その傾向が顕著であり、一部集落では集落機能の維持が困難な状況である。さらに、担い手不足や後継者不足等により、空き家や耕作放棄地が増加している。

山口県の人口の推移と将来推計



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」

(2) 本県の取組

山口県は、前述のような人口減少・高齢化の進行、中山間地域の課題のほか、人生100年時代の到来や、超スマート社会の実現に向けた技術革新の一層の進展など、これからの複雑で予測が困難な時代において、子どもたちが社会の変化に対応しながら、主体的に未来を切り拓く力を育成する取組を推進している。

2016年4月までに県内全ての市町立小・中学校に、2018年度までに県立高校等32校及び全ての特別支援学校にコミュニティ・スクールを導入した。

県立高校等においては、学校・学科の特色や専門性に応じた「テーマ型コミュニティ・スクール」に取り組み、地域の期待に応える高校ならではの専門性の高い取組の質的な向上を推進している。

また、ふるさとに誇りと愛着をもち、地域の産業・社会を支える人材の育成や、意欲と能力のある若者の県内定着の促進により、教育を通じた地方創生の実現をめざす、「ふるさと山口」創生プロジェクトを計画・実行している。

このような中、2018年10月に開催した「第28回全国産業教育フェア山口大会」の成果を引き継ぐとともに、本県の産業教育のさらなる充実と

教育を通じた地方創生の取組を推進することをめざし、本事業を実施することとした。

(3) 田布施町の現状と課題

田布施町は、4つの小学校と1つの中学校を設置している、人口1万5千人余りの町であるが、「自然減」「社会減」により、2017年には、前年と比較して134人の人口が減少している（住民基本台帳より）。町外の製造業等の従事者が多く、町内の40社程度の中小企業は人手不足が課題である。農地の多くは中山間地であり、国営事業で圃場整備を進めているが、高齢化も相まって担い手不足が深刻な状況である。さらに、ブランド商品や観光資源に乏しく、情報発信も課題である。

2015年10月に「田布施町 まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「農林水産業の担い手の確保と育成」や「地域コミュニティづくり」などを目標に掲げて地方創生の取組を進めているが、課題解決に向けては、取組の継続と強化が必要である。

(4) 学校の現状と課題

旧田布施農業高等学校と旧田布施工業高等学校が再編統合し、農業科3学科、工業科1学科の計4学科を設置する農工高等学校として、平成22年に開校した。

統合当初から「農業と工業のコラボレーション」のコンセプトのもと、地域産業の人材育成に努めてきた。これまでに取り組んできた地域との連携活動に加えて、平成30年度から導入したコミュニティ・スクールを中核として、地域との連携・協働による専門的な教育活動を展開している。これまでの「地域と連携した教育活動」を「地域課題の解決等の探究的な学び」へと発展させることが課題である。

(5) 生徒の現状と課題

多くの生徒は4つの専門学科に目的意識をもって入学し、本校のカリキュラムに意欲的に取り組んでいる。しかし、多様な生徒がいるため、学習意欲の喚起や基礎学力の向上に対する方策が必要である。また、生活面では、異なる考えをもつ相手とのコミュニケーションに課題が見られ、集団の中でより良い人間関係をつくる力を育成することが必要である。

進路状況は、例年、約7割が就職、約3割が進学であり、就職希望者の8割程度が県内に就職している。一方で、農業を取り巻く情勢の変化に伴い、近年は、農業や農業関連産業など、学科の専門性を生かした職業に従事する卒業生は減少している。

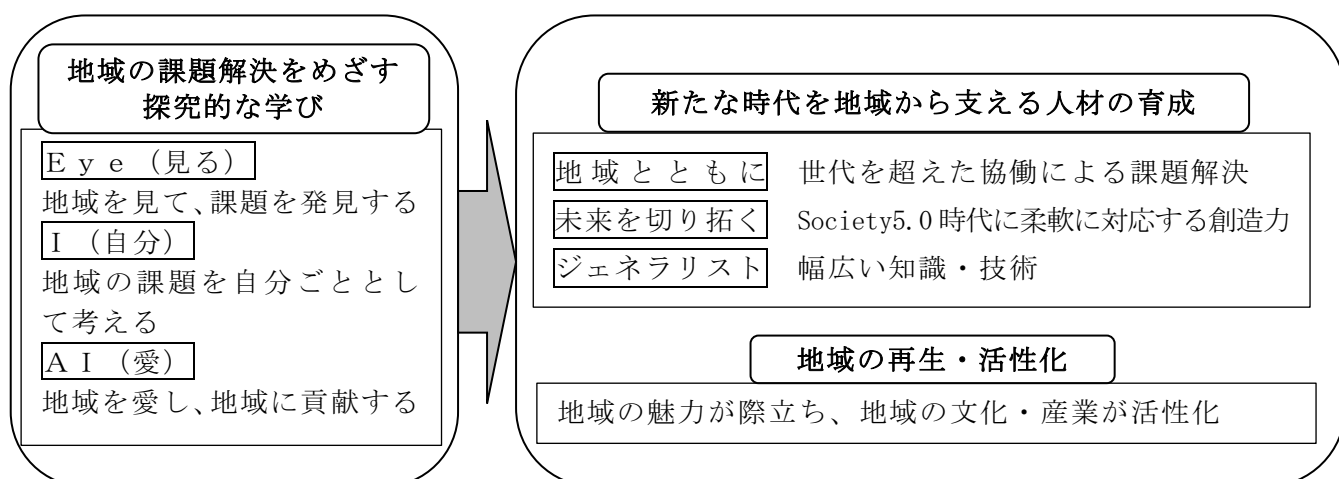
本事業により、地域の課題解決に向けた探究的な学びをとおして、専門的な学習に主体的・創造的に取り組む力の向上を図ることにより、これらの課題の解決に向けた取組を一層進めたい。

3 研究開発課題名（テーマ）

「農工維新！！田布施あい³（キュービック）プロジェクト」
～地域とともに未来を切り拓くジェネラリストの育成～

4 研究目的

上記の現状と課題を踏まえて、「田布施あい³プロジェクト」を実施し、これまでのコミュニティ・スクールの仕組みを発展させて、地域への課題意識や貢献意識をもち、将来、地域ならではの新しい価値を創造し、新たな時代を地域から支える人材を育成する。



（1）育成する地域人材像

ア 「将来の地域産業の担い手となるために、幅広い『知識・技術』を身に付けた人材」

時代は急速に変化し、従来のように一つの専門分野に関する知識や技術のみを有していればよかった時代ではなくなることが予測されている。時代の変化に柔軟に対応し生き抜くために、「農業と工業のコラボレーション」のコンセプトのもと、農業に加えて工業の基礎実習や、外部人材の活用等をおして分野を超えた幅広い知識・技術を身に付け、課題を発見し、解決をめざす人材を育成する。

イ 「Society5.0を迎える時代に、未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力』を習得し、産業の変化に柔軟に対応できる創造力を持った人材」

経済のグローバル化が進展する中で、持続可能な地域産業をつくるためには、地域社会の課題を発見し、解決に向けて主体的に取り組む資質・能力が求められる。特に、地域資源を有効に利用し付加価値の高い商品を開発し、地域ブランドを確立する等、地域社会の発展を担う人材を育成する。

ウ 「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性』を身に付け、多様な集団の中、世代を超えて協働できる人材」

将来、社会で遭遇する様々な課題を解決するためには、周囲の人たちと合意形成を行い協働していくことが必要である。また、持続可能な地域社

会を構築するために、地域の文化や産業を理解した上で継承していく態度や意欲が大切である。

そのために、地域の人とかかわる中で、他者の立場で物事を考え、目標を達成するために他者と協働する意欲と態度を育成し、地域社会のリーダーとなる人材を育成する。

(2) 人材育成プログラム「田布施あい³プロジェクト」＝時間軸

ア STAGE 1「Eye (見る)」プログラム (1年次)

【地域の課題を発見する】

- 地域の良さを発見し、それを発信していく。
- 教科横断的な学習をとおして、自らの専門学科に関する「知識・技術」を身に付ける。
- 広い視野で物事を見ながら問題解決をする力を付ける。

イ STAGE 2「I (自分)」プログラム (2年次)

【地域の課題を自分ごととして考える】

- 地域の問題を自分ごととして捉え、自己の課題を発見して研究を実践する。
- 改善に向けて試行錯誤する中で「思考力・判断力・表現力」を身に付ける。

ウ STAGE 3「AI (愛)」プログラム (3年次)

【課題解決に向けた探究的な学びを通じて、地域と自分を愛する】

- 地域との協働をテーマとして、イベント等を企画・運営する。
- 課題解決の達成状況について検証・分析し、コンソーシアムと協働して研究成果をまとめ、次の目標を設定する。

(3) 地域課題解決に向けて＝空間軸

ア 「農林水産業の担い手の確保と育成」のために

- 「作物」「野菜」「課題研究」等の学習をとおして、GAPについて学習し、国際水準で食の安心安全と持続可能な農業について科学的な根拠をもとに理解する。
- 「食品製造」「課題研究」等の学習をとおして、HACCPについて学習し、国際水準の食品衛生について科学的な根拠をもとに理解する。
- 「酒類醸造」「総合実習」等の学習をとおして、コンソーシアムと協働し、ブランド商品の開発につながる知識・技術を身に付け、6次産業化について理解する。
- 農業のICT化について学習し、スマート農業の手法を理解する。
- 「自然災害と都市防災」「都市緑地デザイン」等の学習をとおして、田布施町の住みよさや、共助・自助の大切さ等を学習する。

イ 「地域情報の発信力の強化」のために

- 「農業情報処理」においてRESASを活用した学習を実施し、2年

次に実施する「田布施アイデアコンテスト」に生かし、田布施町をPRする能力を身に付ける。

- 「農業と環境」において、田布施町の農業に関する現状を学習し、地域の良さと課題を発見するきっかけにする。

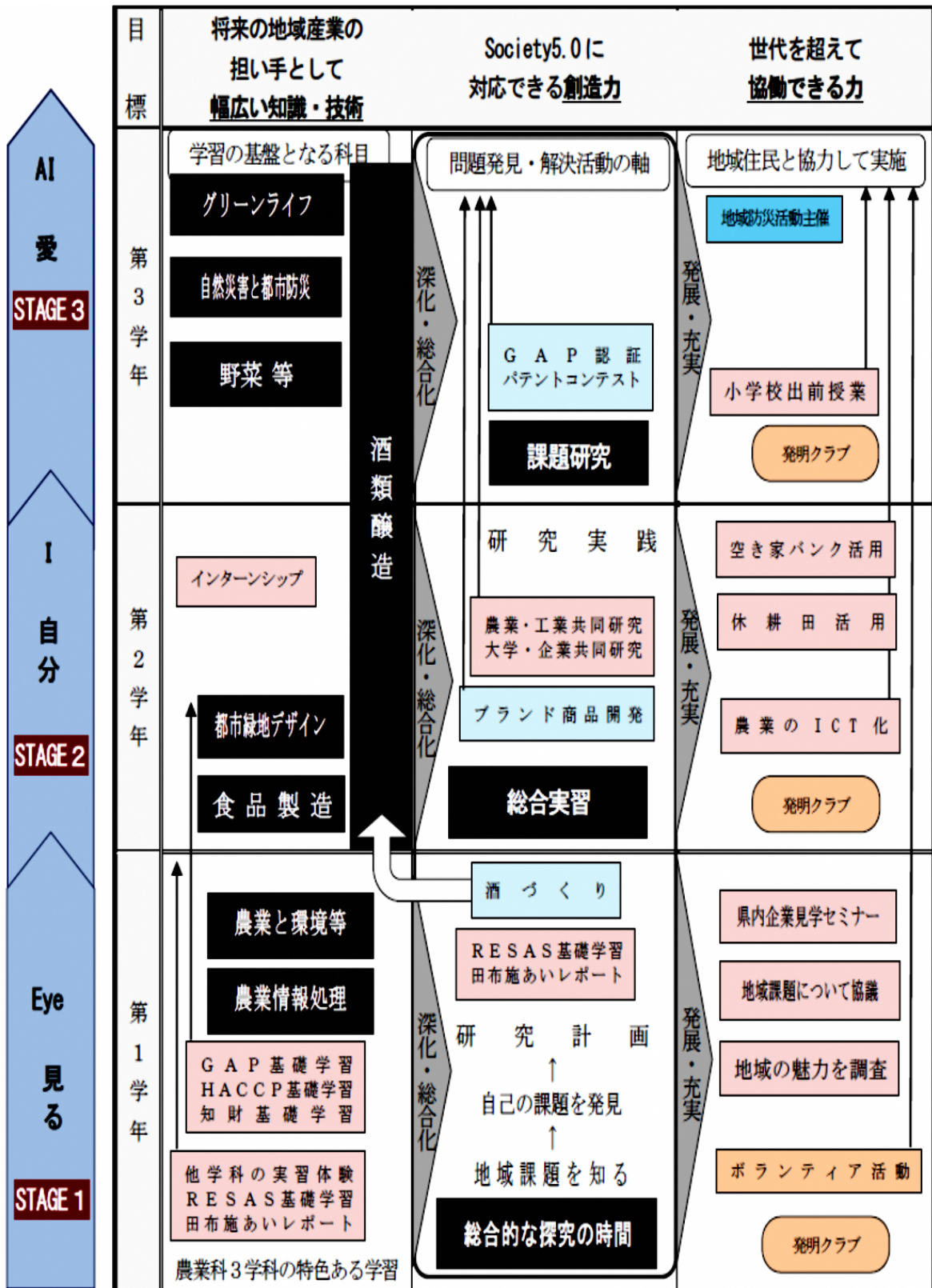
ウ 「地域コミュニティづくり」のために

- 専門科目で学んだ知識・技術を生かして、休耕田や空き家バンクを活用した企画の実現に向けて、コンソーシアムのメンバーに助言や資源の提供を受けながら企画・運営する。
- 専門科目で学んだ知識・技術を生かして、どぶろくの製造等、コンソーシアムと協働して新しい特産品を生み出す取組を実施する。
- 学んだ知識・技術を生かし、防災教室や発明クラブ等、各種教室を開催する。

第2章 研究の計画

1 令和3年度の実施計画

(1) 3年間の実施内容、実施方法及びスケジュール



(2) 令和3年度の計画

STAGE 3「AI (愛)」プログラム (3年次)

【課題解決に向けた探究的な学びを通じて、地域と自分を愛する】

ア 目的

- 地域との協働をテーマとして、イベント等を企画・運営する。
- 県内外の人が一人でも多く田布施町を訪れることを目標として、地域との協働をテーマに、イベント等を企画・運営する。

イ 内容

- 田布施町空き家バンクの運用方法を提案し、地域住民との連携・協働により運営する。
- 空き家を民泊として活用するにあたり、生徒がホストとなり外国人観光客をもてなすなどの実践的な実習アイデアについても検討する。

※ 同時進行で令和3年度入学生には、STAGE 1「E y e (見る) プログラム(1年次)」を、令和2年度入学生には、STAGE 2「I (自分) プログラム(2年次)」を昨年度からの改善点を加えて実施する。

ウ 実施方法

時間：年間の時数、(★)：既存の取組、〔 〕：工業科に属する関連科目

項目	学習内容	時間	農業科に属する科目	各学科に共通する科目	教科横断的な学習内容
ものづくりの出前授業(★)	地域の小学生を招き夏休みの工作教室、ものづくり教室を定期的 に開催する。	6~8回	課題研究	数学B 生物基礎 物理基礎 〔機械実習〕	ものづくりの基礎となる数学や生物、物理について取り扱う。
田布施町空き家バンク活用	田布施町空き家バンクお試し(1週間)暮らし住宅「おいでえ」 の運用に参画する。	通年	課題研究 総合実習 グリーンライフ	現代社会	過疎化や地方創生について取り扱う。
休耕田活用	生物生産科2・3年生が中心となり、休耕田を活用した市民農園 を開設する。活用について町内外 の人を募り、希望者に対して栽培 指導を行う。	通年	課題研究 総合実習 作物、野菜 草花、畜産 農業機械	現代社会 生物基礎	過疎化や地方創生、生物多様性について取り扱う。
どぶろく特区の活用	食品科学科3年生が中心となり、田布施町が取得している「どぶろく特区」の活用のため、「どぶろく」の製造方法を地域に普及 する。	通年	課題研究 総合実習 酒類醸造	化学基礎 生物基礎	酒の発酵について、科学的に取り扱う。

項目	学習内容	時間	農業科に属する科目	各学科に共通する科目	教科横断的な学習内容
知的財産学習 (パテントコンテスト募集等)	特許や実用新案など、知的財産権に関する知識を身に付け、研究成果を登録できるよう検討を進める中で、コンテストに応募できる内容に高める。	通年	課題研究	現代社会 〔機械実習〕	知的財産権について取り扱う。
JGAP 認証取得	生物生産科2・3年生により、地域の農家を招いてGAPの公開審査を実施する。	12時間	課題研究 総合実習	生物基礎	生産物の衛生面について生物学的に取り扱う。
HACCP マニュアル作成	食品科学科2・3年生でHACCPのマニュアルを作成し、地域へ紹介する。	8時間	課題研究 総合実習	生物基礎	加工品の衛生面について生物学的に取り扱う。
地域防災 活動主催	都市緑地科3年生で地域防災に関するプロジェクト学習を行い、成果を地域で発表する。また、地域住民を招いた救急救命講習会や地域住民、特別支援学校及び小中学校合同の防災活動を企画・実施する。	10時間	課題研究 総合実習 自然災害 と防災	保健体育	地域活動や救急救命について取り扱う。
振り返り	研究成果をまとめて発表する。また地域への波及効果や自己の在り方生き方に生かす視点から、3年間の学習を振り返る。	12時間	課題研究 総合実習	現代社会	自己の在り方生き方について取り扱う。

(3) 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（令和3年4月～令和4年3月）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
GAP認証	○	○	○	○	○	○	○	○				
HACCP学習	○	○										
知的財産学習	○	○		○		○	○			○		
共同研究	○	○		○		○	○		○			
地域との協議・情報発信	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
地域と協働した研究	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
農業クラブ県連大会	○	○	○	○								
地域行事参加			○			○	○					
県内企業研究	○	○		○			○	○				
出前授業				○	○	○	○	○				

2 実施体制

(1) 研究開発に係る校内の実施体制

ア プロジェクト企画委員会

- ・ 校長、教頭、カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員、各学科長を含む10名で構成する。
- ・ 事業全体の構想立案、事業の進捗管理等を担当する。
- ・ 専門部長を中心に学科長（プロジェクトリーダー）の4名とする。
- ・ プロジェクトリーダーは、各プロジェクトの主担当として、企画・調整を担当する。

イ プロジェクト実施委員会

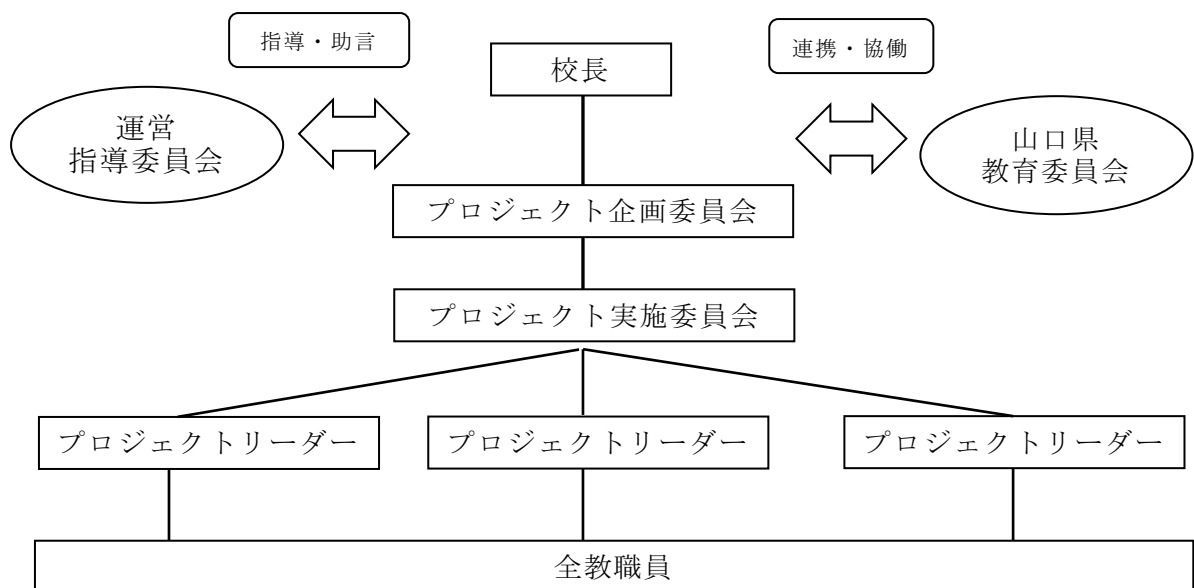
- ・ プロジェクト企画委員会のメンバーに、各プロジェクトリーダーのサポート役を担当する実施委員（教諭）を加えたメンバーで構成する。
- ・ 学校の教職員全体とプロジェクト企画委員会との連携・調整を担当する。
- ・ プロジェクト企画委員会が提案する事業内容の詳細な実施計画を立案する。
- ・ 事業の実施状況に応じて、適宜、プロジェクト企画委員会と連携して、計画等の見直しを行う。

ウ 職員会議

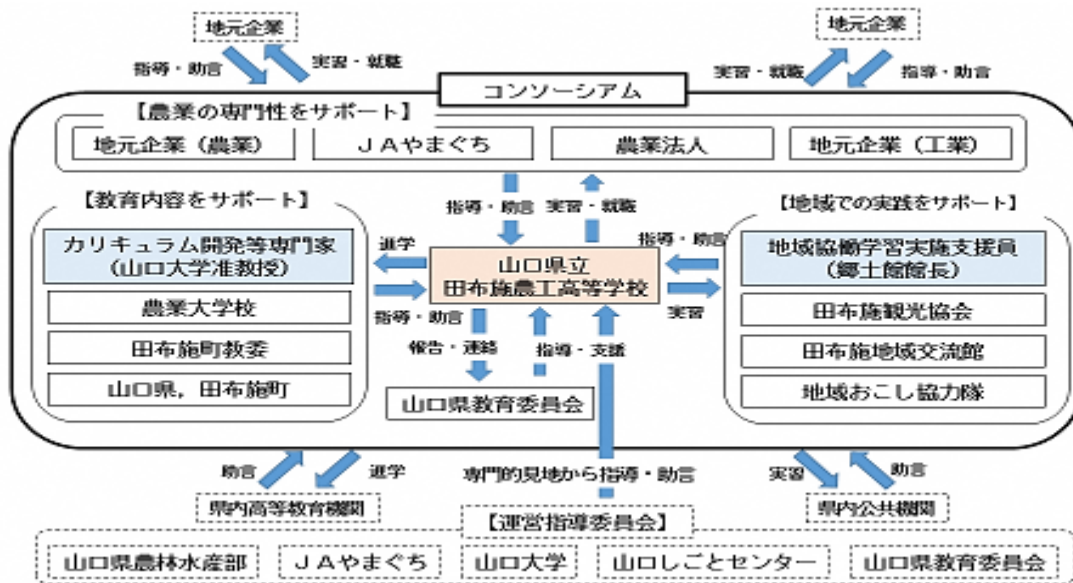
全教職員(情報の共有、事業目的の達成に向けた研修)

(2) 教員の役割及び担当する教員等に対する支援体制

- ・ 探究的な学びの視点による授業を実践する。
- ・ プロジェクト、事業計画に係る共通理解に基づき実践する。
- ・ カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員と連携する。



(3) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制



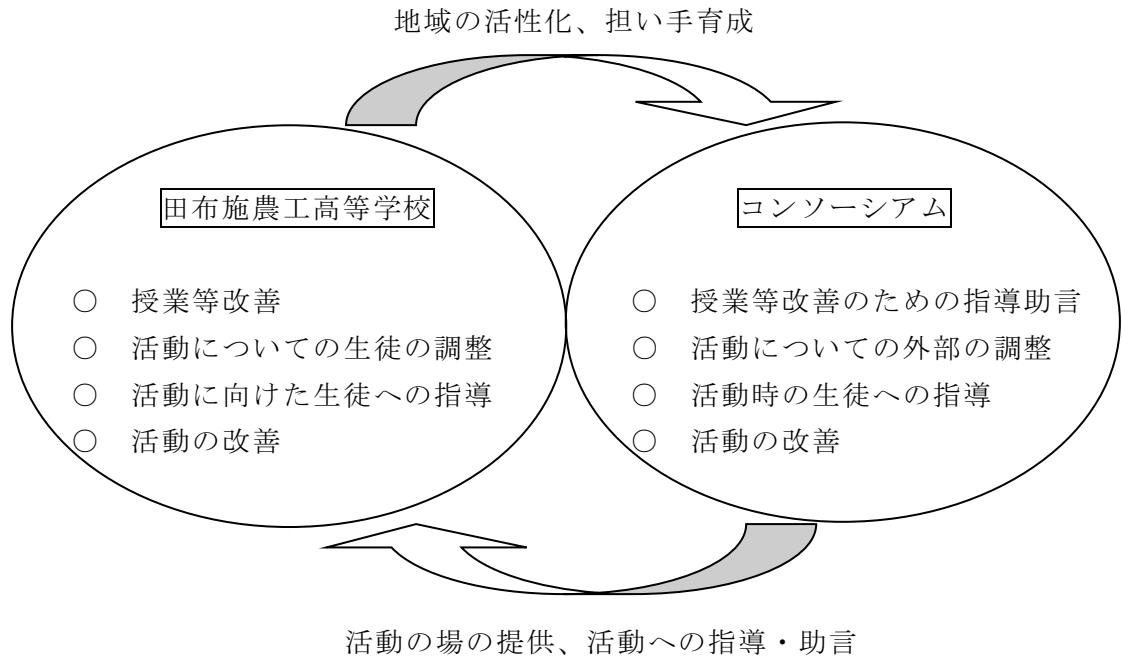
(4) コンソーシアムの構成及び役割

	氏名	所属	役職等	役割
1	陳内 秀樹	山口大学 研究推進機構知的財産センター	准教授	カリキュラム開発等専門家
2	高橋 茂樹	田布施町郷土館	館長	地域協働学習実施支援員
3	井森 幹雄	(株)井森工業	専務	農業・工業連携
4	奥野 忠	県農林総合技術センター 農業担い手支援部	教務課長	GAP等農業関係
5	勝本 澄人	アグリ南すおう(株)	常務取締役	栽培等農業関係
6	鐘突 久伸	協同組合田布施地域交流館	マネージャー	観光、地域ブランド品開発
7	河村 太郎	(株)朝日製作所	代表取締役社長	農業・工業連携
8	齋藤 貴之	齋藤牧場	代表	畜産等農業関係
9	佐藤 毅	農水省中国四国農政局 南周防農地整備事業所	所長	農業のICT化等農業関係
10	松本 尚樹	田布施町経済課	主任主事	6次産業化等
11	井上 信哉	田布施町企画財政課	係長	地域連携・調整等
12	濱田 匡弘	田布施中学校	校長	地域連携
13	鈴木 侯豊	田布施町教育委員会社会教育課	社会教育主事	地域連携・小中学校連携等
14	須賀 綾加	田布施農工高等学校	P T A 会長	地域連携
15	葉山 雅基	田布施農工高等学校	校長	プログラム開発
16	国清 賢一	県教育庁高校教育課	課長	研究等活動支援

(5) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

- コンソーシアム会議（年3回）における将来の地域ビジョン・求める人材像等に係る議論
- 地域企業・団体等の人脈やノウハウなど、既存の組織・ネットワークの活用
- 町と学校が連携したわかりやすい情報発信

(6) コンソーシアムにおける研究開発体制



(7) カリキュラム開発等専門家（プロフェッショナル型）の指定及び配置計画

氏名	雇用形態	経歴等
陳内 秀樹	非常勤	山口大学知的財産センター准教授、GAP 指導員、知的財産教育、農業教育、産学連携、技術経営、GAP 教育等

(8) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

氏名	雇用形態	経歴等
高橋 茂樹	非常勤	元：日立製作所ソフトウェア開発本部、新世代コンピュータ開発機構 COT、桜ヶ丘記念病院 現在：田布施歴史館館長、発明クラブ主任指導員、健康ウォーキングクラブ代表

(9) 運営指導委員会

委員	助言を求める内容
山口大学大学院 教育学研究科 教授 霜川 正幸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業評価や事業評価について ・ 地域との協働活動に関する留意点
株式会社アイダ (地域活性化伝道師) 代表 岩崎 徹	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コミュニティづくりのための活動事例 ・ 休耕田や空き家バンク等地域資源の活用事例
一般社団法人 山口県観光連盟 専務理事兼マーケティング総括責任者 上田 英夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域情報の発信力強化のために、どのようなことができるか ・ 地域の良さを見付けるための学習
農林水産部ぶちうまやまぐち推進課 課長 泉 文男	<ul style="list-style-type: none"> ・ 付加価値の高いブランド力のある地域商品をめざした商品開発 ・ どぶろく特区の活用方法
農林水産部農業振興課 課長 内藤 雅浩	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業のICT化についての学習 ・ 地域農業の担い手育成
山口しごとセンター センター長 重永 敬二	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元定着、定住に向けて、学校活動でできること
教育庁高校教育課 課長 国清 賢一	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業目的に沿って事業の進捗状況を管理

(10) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

- コンソーシアム会議（年3回）：取組の課題や方向性について議論
- 運営指導委員会（年2回）：専門的な第三者的視点からの意見・分析
- 成果発表会（年1回）：有識者の評価により、次年度の取組を改善

(11) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

- 県事業（明日のやまぐちを担う産業人材育成事業、やまぐちの活力を支える高校生就職支援事業等）を活用した財政的支援
- コミュニティ・スクールのさらなる充実に向けた支援
- 「田布施町と山口県立田布施農工高等学校との連携・協働に関する協定書」の締結

(12) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

- 「県内就職促進プロジェクトチーム」（県）の委員が運営指導委員会に参加
- コンソーシアムの組織体制をコミュニティ・スクールに発展的継承
- 本事業により開発した教育プログラムを周知

第3章 研究別概要

1 1学年の取組

(1) 取組内容

学年テーマを「田布施を知る」として、田布施町の魅力や課題、伝統・文化について、地域学習を計画した。RESASの活用やフィールドワークなどにより多面的に情報を収集し、集積したデータについて調査をした。整理・分析した上で、ポスターセッションを実施した。

(2) 実施内容

学科ごとに3～6人の班に分かれ、産業基礎（総合的な探究の時間：2単位）や長期休業中に、それぞれが設定した探究テーマについて調査した。

地域の企業や大学と連携した商品開発や、その製造・販売をとおして地域の特徴を生かした特産品の魅力を高めるとともに、宣伝・広告活動を通じて情報発信能力の強化に取り組んだ。

また、コロナ禍における地域産業の課題や、その解決方法などについても検証した。学年末にその成果を発表した。

探究テーマ（一部抜粋）

- ・田布施町の特産品（農作物、酒類など）について
- ・田布施地域交流館と「たぶせ健康野菜」のブランド認定マークについて
- ・田布施町の福祉について
- ・田布施町の古墳や大波野神舞について
- ・田布施町の漁業について
- ・熊毛郡で伝統的に行われている行事について

(3) 実施協力機関

田布施町役場、田布施町観光協会、協同組合田布施地域交流館、田布施漁業協同組合、周南地場産業振興センター、葛岡、瓜迫農事組合法人、イチジク農家（吉野さん）、のんびらんどうましま、地域おこし協力隊

(4) 活動の様子



(5) 事業の活動項目

- 施設等の視察・見学 研究活動 商品開発 討論会
 農産加工物販売 アンケート調査 課題ノート K J 法
 大会・競技会参加 製作物展示 I C T の活用 発表会

(6) 結果 (アウトプット)

- ・各自で田布施町の産業について調べた後、類似した興味を持つ生徒でグループを作り、さらに調査を進めた。
- ・インターネットの情報や R E S A S を活用して田布施町の産業についてまとめた後、実際に関係した企業や農家、関係機関にヒアリング調査を実施した。
- ・調査内容をポスターやスライドにまとめ、成果を発表した。
- ・田布施町における探究テーマについて調べ学習を行い、その分野における特色や問題点などについて、グループ内で話し合った。
- ・コロナ禍の影響による各産業の変化や企業等における対応策について学び、高校生として何が出来るのかを模索した。
- ・身近な S D G s 活動として、ゴミを減らす努力やゴミの分別活動、食品ロスの軽減をとおして未来の社会を創造し、持続可能な活動について考えた。

(7) 成果 (アウトカム)

ア 生徒の変容 (アウトカム)

育成する地域人材像 (地域の未来を支える)	
地域産業の担い手として 幅広い知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特産品や地域の文化、食の伝統を知ることができた。 ・地域活性化や6次産業化に関する知識や技術を身に付けることができた。 ・衛生管理を意識したものづくりに取り組む能力や態度など、専門性を高められた。
Society5.0時代に柔軟に対応できる 創造力	<ul style="list-style-type: none"> ・地域特産に関する商品の開発をとおして、地域活性化に繋がる創造力や実践力の育成が図られた。
世代を超えて 他者と協働して課題を解決	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の外部講師等からの講演や意見交換をとおして、コミュニケーション能力を高めることができた。

イ 地域での成果

取り組む地域課題 (地域活性化の取組)	
地域情報の発信力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・取組について、各種メディアでの報道や「やまぐち6次産業化・農商工連携推進大会」での発表を通じて、広くPRできた。
農林水産業の担い手の確保と育成	<ul style="list-style-type: none"> ・商品開発等のスキルを身に付けることができた。
地域コミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の店舗との連携を図ることができた。

2 2学年の取組

(1) 取組内容

学年テーマを「With TABUSE」として、1年次で取り組んだ田布施町の課題や伝統・文化についての地域学習を生かして、課題解決に向けて田布施町と何ができるかRESASの活用や知財学習、SDGsと関連付け考え、広い視点で思考力・判断力・表現力を身に付ける取組を行った。

(2) 実施内容

クラスごとに2人～8人の班に分かれて、探究テーマ設定をし、課題解決に向けた調査・研究に取り組んだ。学年末には、活動成果を発表した。

探究テーマ（一部抜粋）

- ・田布施の農業と共にこれからの農業を考える
- ・田布施の食を知る
- ・田布施町の地質について
- ・田布施を知り農工を知れば協働危うからず

(3) 実施協力機関

田布施町役場企画財政課・建設課・町民福祉課、田布施町観光協会、協同組合田布施地域交流館、中四国農政局、西日本短期大学、東北大学、田布施町郷土館、平生町郷土館、周南市役所、(株)ソイルブレン、やないろc a f e、(株)はつもみぢ、酒井酒造(株)

(4) 活動の様子



(5) 事業の活動項目

- | | | | |
|-------------|-----------|-------------|---------|
| ■ 施設等の視察・見学 | ■ 研究活動 | ■ 商品開発 | ■ 討論会 |
| ■ 農産加工物販売 | □ アンケート調査 | □ 課題ノート | □ K J 法 |
| □ 大会・競技会参加 | ■ 製作物展示 | ■ I C T の活用 | ■ 発表会 |

(6) 結果 (アウトプット)

- ・ アグリフォーラムを開催し、地域の農業の課題について議論した。
- ・ 田布施町の農産物や規格外野菜を活用した特産品の商品化を、地元 c a f e や地域交流館と共同開発し、販売した。
- ・ 連携企業から地質データを入手後、田布施町の地質特性について調査し、防災の視点から考察し、発表した。
- ・ 大学から講師を招聘し、知財に関する講演会を実施後、「知財学習」の視点から発見した地域の課題を研究し、まとめた内容を発表した。
- ・ 田布施地域交流館敷地内の花壇のデザインを、生徒が設計することとなり、デザイン案を田布施町役場の方にプレゼンし、評価をいただいた。

(7) 成果 (アウトカム)

ア 生徒の変容 (アウトカム)

育成する地域人材像 (地域の未来を支える)	
地域産業の担い手として 幅広い知識・技術	・地域の関連産業の方との交流により、産業について幅広い視点から意見をいただくなど、職業理解に繋げることができた。
Society5.0 時代に柔軟に対応できる 創造力	・食育や環境保全、SDGs、知財学習に関する学習をもとに、持続可能な社会の実現のため、地球的な規模の課題と地域の課題を照らし合わせ学ぶことにより、次世代に向けた諸課題を生徒、教員間で共有することができた。
世代を超えて 他者と協働して課題を解決	・地域の様々な職種の方と直接または、リモートで交流することで、コミュニケーション力を高めるとともに、協働する手立てを身に付けることができた。

イ 地域での成果

取り組む地域課題 (地域活性化の取組)	
地域情報の発信力の強化	・地域の特産品の商品開発に積極的に取り組み、内容をまとめ、ポスターやホームページ等でPRした。 ・田布施町の方を招いて、研究成果発表会を開催し、発表内容を地域・生徒・家族間で共有することができた。
農林水産業の担い手の確保と育成	・インターンシップを実施し、地域における諸課題を専門教育と結びつけて考えることができた。 ・企業見学を実施し、専門的かつ企業的な視点からの講義をとおして、職業理解を高めることができた。
地域コミュニティづくり	・地域の店舗などの商業施設と連携し、新商品の開発に協力することができた。 ・田布施町と連携し、地域花壇を制作するなど、連携を図ることができた。

3 3学年の取組

(1-1) 生物生産科：小学校連携事業（城南小学校）

ア 取組内容

小学生との交流学习において、2年次までに学習した田布施町の歴史や文化とともに、米や大豆などの田布施地域の生産状況についても伝えた。専攻班ごとに様々な体験学習プログラムを準備し、農業への興味や地域への関心を高める活動に取り組んだ。また、ICT機器を活用したりリモート学習にも挑戦した。

イ 実施内容

専攻名	内 容
作物	トウモロコシとダイズを使った「作物の栽培と利用」
野菜	ハロウィンカボチャを使ったランタン作り
草花	花壇用草花を使った栽培と装飾
果樹	ブドウの鉢植えを使った「ホームフルーツの普及」
畜産	おいしい牛乳ができるまで

ウ 実施協力機関

城南小学校、田布施町商工会議所、田布施町観光協会

エ 活動の様子



オ 結果（アウトプット）

- ・ 専攻班ごとに作物の栽培から観察・収穫・加工をとおして、小学生との交流を深めることができた。
- ・ 小学生との様々な活動について、報道機関を通じて情報発信を行うことで、本校での取組をPRできた。
- ・ 田布施町商工会議所や田布施町観光協会と連携したイベントを開催でき、協働して田布施町の魅力を発信できた。今後も田布施町の関連機関と連携してイベント等を継続することで田布施町の活性化を図りたい。
- ・ 短いスパンでPDCAサイクルを実践したことで、顕著な相乗効果が見られ、回を重ねるごとに意欲的な活動につながったことが検証された。

(1-2) 生物生産科：田布施農工高校野菜農場におけるGAP認証事業

ア 取組内容

安全・安心な農産物を取り扱う農業生産工程管理(Good Agricultural Practice)を実施する。外部のGAP指導員からの指導助言を生かし、JGAP認証取得に取り組む。

イ 実施内容

月日	内容	場所
6月18日	GAP指導員の陳内先生よりGAP講習会の実施	本校野菜圃場
9月26日	適合基準の確認	本校野菜圃場
11月9日	適合基準の確認	本校野菜圃場
11月24日	適合基準の確認	本校農場
11月25日	適合基準の確認	本校野菜圃場
11月26日	JGAP審査会の実施	本校農場及び野菜圃場
通年	作業内容、適合基準の確認	本校野菜圃場

ウ 実施協力機関

山口大学陳内准教授、AFCインターナショナル(GAP認証機関)

エ 活動の様子



オ 結果(アウトプット)

- ・ 陳内准教授よりGAPに対する考え方や意識について学んだ。
- ・ 陳内准教授とともに、野菜圃場におけるリスク評価を行い、危険個所の発見・改善に取り組んだ。
- ・ 生徒間で農場内をリスク評価し、改善箇所の発見及び整理整頓を実施した。
- ・ JGAP審査会を実施し、セルリーのJGAP認証を取得した。

(2-1) 食品科学科：ブランド商品開発

ア 取組内容

ジビエを美味しく加工するため、分析を行いながら加工方法を検討した。さらに、災害時の非常食として活用するため、簡単に調理できる調理方法や味付けを見直し、実際に地域に出向いて講習会を重ね、地域の方の意見を聞きながら研究に取り組んだ。

イ 実施内容

月日	内容	場所
10月26日	ジビエハンバーグの加工実習	周防大島町
11月14日	ジビエ研究の発表会と防災訓練の実施	周防大島町
通年	ジビエを活用した商品開発と普及活動	田布施町内
	地域の小学校と連携した食育活動	田布施町内

ウ 実施協力機関

山口県柳井農林水産事務所、山田精肉店、田布施町猟友会

エ 活動の様子



オ 結果（アウトプット）

- ・ 地元猟友会から、害獣被害の状況や捕獲した害獣の有効な活用方法を聞き取り、ニーズに対応したジビエのレシピ開発に取り組むことができた。
- ・ 地域の小学校において、小学生のニーズを調査し、お菓子の家づくりや地域のカフェと連携した「夢のクレープ作り」などの食育活動を実施した。PDCAサイクルを繰り返し、生徒は対象年齢に合わせた企画・運営などの見直しや改善を図ることができた。

(2-2) 食品科学科：田布施町ブランド商品開発

ア 取組内容

本校におけるこれまでの酒造の取組記録である酒造帳簿を電子データ化し、データに基づく酒造実習に取り組んだ。さらに、田布施町のどぶろく特区認定を活用して、どぶろく製造を試みた。どぶろくの仕込みは、電子化した酒造データを用いるとともに、どぶろくの成分分析及び教職員への試飲アンケート調査を通して、製造工程の見直しを行った。

また、酒造会社での仕込み作業を体験することで、学習意欲や技術力の向上だけでなく、問題解決能力を育成することができた。さらに、本校の酒粕を田布施地域交流館へ提供し、本校生徒が考案した「のうこう酒粕クリームブリュレ」に使用するなど、特産品開発にも連携して取り組んだ。

イ 実施内容

月日	内容	場所
8月7・10日	はつもみじへのインターンシップ	はつもみじ
12月27日	酒井酒造への企業見学	酒井酒造
通年	酒造データ化の整理 酒造の製造や分析、アンケート調査 酒粕や麴を地域へ提供	校内

ウ 実施協力機関

株式会社はつもみじ、酒井酒造株式会社、協同組合田布施地域交流館

エ 活動の様子



オ 結果（アウトプット）

- 過去の酒造データ等を基にどぶろくを仕込んだことにより、速醸酏と高温糖化酏の製法の違い、発酵段階の温度調整の見直しなど、酒質改善に向けた課題を知ることができた。
- これまでの本校の酒造帳簿を電子データ化することで、温度変化や成分含有量などの分析の効率化が図れた。
- 試験醸造のどぶろくについて、教職員への試飲アンケート調査を活用して、製造工程を見直した。
- 酒造会社2社において仕込み作業を体験し、本校の製造過程や研究内容についても、指導助言を頂き、本校の製造工程の見直しに繋げることができた。
- メディア(毎日小学生新聞、山口朝日放送など)からの取材をとおして、酒造りについて情報発信できた。
- 酒粕を田布施地域交流館へ提供し、菓子加工の活用や麴を子ども食堂の味噌づくり用に提供するなど、地域に貢献することができた。

(3-1) 都市緑地科：街区公園設計デザイン

ア 取組内容

科目「都市緑地デザイン」における「防災公園の設計」での学びを生かし、地域に寄り添った街区公園の設計に取り組んだ。第4回九州産業大学 建築都市工学部 全国高等学校 プロジェクトコンテスト 2021、全国造園デザインコンクール街区公園部門へ応募・出展した。活動をとおして、デザイン力、CAD製図の技術向上、分析力、プレゼンテーション力の習得をめざす。

イ 実施内容

月日	内容	場所
5月18日	テーマ決め、班内プレゼンテーション	校内
8月24日	第4回九州産業大学 建築都市工学部 全国高等学校 プロジェクトコンテスト 2021へ応募	校内
11月20日	学習成果発表会にて図面展示	校内
11月30日	西日本短期大学西川教授による公園設計デザインの講義	校内
1月11日	全国造園デザインコンクール街区公園部門へ応募	校内
1月21日	課題研究発表会	校内
通年	公園設計に伴う設計、製図技術の向上	校内

ウ 実施協力機関

田布施町役場企画財政課・町民福祉課、西日本短期大学緑地環境学科

エ 活動の様子



オ 結果（アウトプット）

- ・ コンテストの課題に沿った街区公園のデザインを考案し、図面化した。地域の実情に合わせ、身近な公園の機能を発揮できる計画とするため、都市緑地デザインでの防災公園の設計計画で培った知識や技術を応用することができた。
- ・ 全国造園デザインコンクールにおいて、2名が佳作を受賞した。
- ・ 西日本短期大学緑地環境学科西川教授から、公園を設計するにあたってのアイデアの出し方や、空間デザインの基礎的な方法を学べた。
- ・ 活動の成果として、田布施町から依頼を受け、都市緑地科2年生が田布施地域交流館の花壇設計を行うこととしている。

(3-2) 都市緑地科：小学生向けの防災教育プログラムの開発

ア 取組内容

これまで学習した防災に関する知識を生かし、企業とも連携しながら、田布施町内の小学校3・4年生を対象とした、防災意識啓発の防災教育を実践した。

イ 実施内容

月日	内容	場所
4月20日	田布施町立城南小学校との連携事業打ち合わせ会	城南小学校
6月16日	(株)睦美マイクロ打ち合わせ	(株)睦美マイクロ
10月19日	小学校連携事前打ち合わせ	城南小学校
10月26日	水圧体験装置「水圧くん」実演・体験 (小学3、4年生対象)	城南小学校
11月16日	小学生への防災教育プログラム実践 (小学3、4年生対象) ・防災トランプによる交流 ・避難グッズについて考えよう	城南小学校
通年	土石流実験装置・液状化再現装置の研究開発、防災教育プログラムの研究	田布施農工高等学校

ウ 実施協力機関

城南小学校、(株)睦美マイクロ、
兵庫県企画県民部防災企画局、田布施町、山口県防災危機管理課

エ 活動の様子



オ 結果 (アウトプット)

- ・ 田布施農工高校の避難訓練において、生徒への防災講話を行った。
- ・ 取組内容を「ぼうさい甲子園」(兵庫県主催)に応募した。
- ・ 令和4年度に田布施町の防災フェスタに参加して、防災意識の啓発活動に取り組むこととしている。
- ・ 研究成果について、研究成果発表会で発表した。
- ・ 令和4年5月に開催される山口県総合防災訓練に取組内容をWeb展示する予定である。

(4-1) 機械制御科：I o Tデバイスによるスマート農業の取組

ア 取組内容

4年前より本校生物生産科や地域農業法人の方々と、機械制御科の学習内容を生かしたI o Tデバイスの作成に取り組んできた。本年度は、稲作に焦点を当て、水田の水位監視システムデバイスを製作した。電池駆動での数か月動作に苦労したが、実際に動作するデバイスを製作できた。

イ 実施内容

月日	内容	場所
4月13日	本校生物生産科から稲作についてのレクチャー及び、学校田の視察	校内
4月20日	マイコン講習会	校内
6月1日	コンソーシアム委員であるアグリ南すおう(株)の勝本氏から、見学できる水田を紹介	校内
6月15日	地域の農業法人アルギットファームさんから水田の水管理の説明	田布施町波野
9月22日	I o Tデバイスプロトタイプ電池耐久テスト	学校田
11月9日	I o Tデバイス完成	校内
1月19日	研究成果発表会	校内
通年	研究・試走・2年生への指導	田布施町内および校内

ウ 実施協力機関

J A南すおう(株)、本校生物生産科、農業法人アルギットファーム

エ 活動の様子



オ 結果 (アウトプット)

- ・ 現場で地域の農業法人の方と意見交換を行った。
- ・ 他学科と連携し、機械制御科の技術を生かした製品を開発できた。
- ・ 授業の内容からより深く踏み込み、マイコンと通信の仕組みを理解することができた。
- ・ 研究成果を「やまぐち高校生ICT活用コンテスト2021」に出品した。
- ・ 電池駆動のI o Tデバイス「たんぼのキャディーさん」を完成させた。

(4-2) 機械制御科：サイクリングマップによる地元魅力再発見

ア 取組内容

1年次からの町の魅力や課題について学習し、自分たちで実現可能な取組を実践した。サイクリングコースを設定し、マップやそこに飾るモニュメントを作成した。また、Web上でサイクリングを行えるシステムづくりやベンチ製作、たい肥を利用した温水システムで足湯なども製作した。

イ 実施内容

月日	内容	場所
4月19日	田布施町観光協会と協議	田布施町観光協会
4月29日	田布施町散策サイクリング	田布施町内
5月11日～	田布施中学校技術の授業にて3DCAD および知財学習会	校内
7月12日	山口ティール・エル・オー知財研修会受講	山口県セミナーパーク
9月28日	山口大学知財実践創造甲子園参加	校内・Web
通年	研究・試走・2年生への指導 発表（1月19日）	田布施町内および校内

ウ 実施協力機関

田布施町役場企画財政課、田布施町教育委員会、田布施町観光協会、山口大学、有限会社山口ティール・エル・オー

エ 活動の様子



オ 結果（アウトプット）

- ・ 田布施町観光協会協力の下、独自のサイクリングマップを製作した。
- ・ たい肥の発酵熱を利用した足湯装置及び酒粕を混ぜたたい肥を作り、パテントコンテストに出品した。
- ・ 有限会社山口ティール・エル・オー主催の知的財産セミナー受講により、知的財産権に関する知識と意識を高めることができた。
- ・ 日刊工業新聞社協力のもと「ものづくりフェア」に参加し、企業の方々から知的財産権の活用方法を学ぶことができた。
- ・ ロボット開発等で培った技術を利用し、小学生、中学生向けの工作教室を多数開催し、地域でのものづくりや知財教育を広めることができた。
- ・ 様々なコンテストへの参加を通じて「田布施」の名を発信できた。

4 各科3年間の取組

(1) 生物生産科 3年

ア 取組内容

田布施地域交流館を中心とした田布施町の農業に着目し、生産から販売までの過程について考えた。

小学校との連携、農畜連携、JGAP認証など様々な面から地域における農業課題解決に向けたアプローチを行った。また、アグリフォーラムを中心とした地域人材育成をめざしたキャリア教育にも取り組んだ。

イ 実施内容

年次	内容	場所
1年次	テーマを「田布施はなまる計画」として、地域を知ることから始めた。実際に地域での視察も行い、農業の魅力を感じるとともに、「田布施地域交流館」と連携し私たちのできる、今後の農業生産における地域連携について考えた。	田布施地域交流館、校内
2年次	テーマを「田布施栽培計画～田布施で作る～」として、地域の事を自分事として考え、JGAP認証取得、耕作放棄地の再生、給食センターとの連携に取り組んだ。	田布施地域交流館、校内
3年次	テーマを「田布施栽培計画～地消地産から地産地消へ～」として、小学校との交流学习、JGAP認証取得、耕作放棄地の再生と農畜連携に取り組んだ。	田布施地域交流館、山口県立山口農業高等学校、城南小学校、校内

ウ 実施協力機関

田布施町役場企画財政課・経済課、協同組合田布施地域交流館、田布施総合支援学校、山口県柳井農林水産事務所、農事組合法人アグリファーム木地の郷、城南小学校

エ 活動の様子



オ 事業の活動項目

- | | | | |
|-------------|-----------|----------|-------|
| ■ 施設等の視察・見学 | ■ 研究活動 | □ 商品開発 | ■ 討論会 |
| ■ 農産加工物販売 | ■ アンケート調査 | □ 課題ノート | ■ KJ法 |
| ■ 大会・競技会参加 | □ 製作物展示 | ■ ICTの活用 | ■ 発表会 |

カ 結果（アウトプット）

- ・ 「セルリー」においてJGAP認証を取得し、安全・安心な農産物栽培について幅広い知識・技術を習得した。
- ・ 「農事組合法人木地の郷」と継続的な農畜連携を図ることができた。
- ・ 地域の給食センターに食材提供を行い、給食における地元生産物使用割合向上に貢献した。
- ・ 「エディブルフラワー」、「ホームフルーツ栽培」等、生産物の活用方法の研究に取り組んだ。
- ・ ハロウィンカボチャを活用したイベントを通じて田布施町の広報活動につながった。
- ・ ICT機器を使った交流活動を実施した。
- ・ 耕作放棄地を家畜牧草地として再生し、生産品を使った新事業立ち上げの糸口となった。

キ 成果（アウトカム）

（ア）生徒の変容（アウトカム）

育成する地域人材像（地域の未来を支える）	
地域産業の担い手として幅広い知識・技術	・ J G A P 認証に向けた実践をとおして、専門的な知識・技術が身に付けられた。
Society5.0 時代に柔軟に対応できる創造力	・ 地域での新たな生産物開発をとおして、地域活性化に繋げる創造力や実践力、コミュニケーション能力が向上した。 ・ I C T を活用した新たな交流学习を構築できた。
世代を超えて他者と協働して課題を解決	・ P D C A サイクルを実践することができるようになった。 ・ 異年齢とのコミュニケーション能力が向上した。 ・ 自分の行動を客観的に捉え、先を見据えた行動力・実践力が身に付いた。

（イ）地域での成果

取り組む地域課題（地域活性化の取組）	
地域情報の発信力の強化	・ 地域経済情報システム「RESAS」を使って地域についてデータを基に分析することで、地域の特色や課題が明確になり、具体的な活動につながった。
農林水産業の担い手の確保と育成	・ アグリフォーラムを中心としたキャリア教育をとおして、農業法人への就労につながった。
地域コミュニティづくり	・ 学校給食への食材提供、ハロウィンカボチャを使った連携など地域における新事業の立ち上げを行った。

ク 事業の評価※生徒アンケートより（身に付いたと感じた生徒の割合）

	取組前	取組後
地域産業の担い手として幅広い知識・技術	34%	43%
Society5.0 時代に柔軟に対応できる創造力	28%	27%
世代を超えて他者と協働して課題を解決	33%	27%

(2) 食品科学科 3年

ア 取組内容

田布施町の食材を知るところからはじめ、地域に貢献できる商品づくりについて模索しながら商品開発に取り組んだ。また、地域の外部人材を活用した商品開発と販売等をとおして、地域の特産品の魅力を高めるとともに、商品開発等に必要な力を身に付け、情報発信にも取り組んだ。

イ 実施内容

年次	内容	場所
1年次	テーマを「おむすびコンテスト～“食”をとおして地域を盛り上げる～」として、田布施の特産品とおむすびを結び付けた「縁・おむすびプロジェクト」に取組、田布施町の名産を生かしたおむすびの試作・発表した。	田布施地域交流館、校内
2年次	テーマを「田布施 de I 春夏秋冬 農工レシピ」として、生物生産科や田布施地域交流館と情報交換しながら、廃棄野菜を活用した特産品開発し、田布施町特産品を開発のコンテストに応募した。	田布施地域交流館、校内、やないろ c a f e、周防大島町石小田自治会
3年次	テーマを「田布施 de AI(愛) Tabu・Love・ちゃぶ台」～田布施をちゃぶ台(舞台)に、地域の方と愛あふれる食卓活動をめざして～として、田布施町役場、総合支援学校、小学校などと連携し、「食」をとおした地域の課題解決に向けた取組を実践した。	田布施地域交流館、周防大島町石小田自治会、城南小学校、やないろ c a f e、丸久田布施店

ウ 実施協力機関

田布施町役場企画財政課、協同組合田布施地域交流館、周南地場産業振興センター、株式会社丸久、田布施総合支援学校、山口県柳井農林水産事務所、山田精肉店、田布施町猟友会、城南小学校、やないろ c a f e、お菓子のピエロ、周防大島町石小田自治会

エ 活動の様子



オ 事業の活動項目

- 施設等の視察・見学
- 研究活動
- 商品開発
- 討論会
- 農産加工物販売
- アンケート調査
- 課題ノート
- K J 法
- 大会・競技会参加
- 製作物展示
- I C T の活用
- 発表会

カ 結果（アウトプット）

- ・ 商品開発に必要な地域食材の活用方法、原価計算、マーケティングを学びながら、協力して商品化する力が身に付いた。
- ・ 山口市で行われた「やまぐち6次産業化・農商工連携推進大会」において、取組の成果をPRできた。
- ・ 丸久と連携したレシピ開発では、2つの商品化とともに、POP作りやレシピ配布など販売促進方法も学ぶことができた。
- ・ 子ども食堂と連携し、お弁当やイベントの企画・運営を実施することができた。また、「農工クレープ」を月替わりで開発し、売り上げの一部を子ども食堂活動資金として寄付する仕組みづくりを構築できた。

キ 成果（アウトカム）

(ア) 生徒の変容（アウトカム）

育成する地域人材像（地域の未来を支える）	
地域産業の担い手として 幅広い知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・20品目を商品化・販売するなど地域の特産品を用いた商品開発を行う知識・技術が身に付いた。 ・HACCP、衛生管理を意識したものづくりに取り組む能力や態度など専門性を高めることができた。
Society5.0時代に柔軟に対応できる 創造力	<ul style="list-style-type: none"> ・地域特産に関する商品開発をとおして、地域活性化に繋げる創造力や実践力が向上した。 ・ICTを活用し、他校との共同研究に取り組むことができた。
世代を超えて 他者と協働して課題を解決	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自治体等と課題を共有し、意見交換しながら、解決に向けた取組を企画・実践する力やコミュニケーション能力が身に付いた。

(イ) 地域での成果

取り組む地域課題（地域活性化の取組）	
地域情報の発信力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・取組が各種メディアに取り上げられたり、「やまぐち6次産業化・農商工連携推進大会」で発表するなど、広くPRを行った。
農林水産業の担い手の確保と育成	<ul style="list-style-type: none"> ・商品開発等のスキルの育成を図ることができた。 ・地域で農業を営みながら「6次産業化に挑戦したい」と希望する生徒が増加した。
地域コミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・商品開発をとおして、地域の店舗との連携を図ることができた。

ク 事業の評価※生徒アンケートより（身に付いたと感じた生徒の割合）

	取組前	取組後
地域産業の担い手として 幅広い知識・技術	40%	51%
Society5.0時代に柔軟に対応できる 創造力	25%	37%
世代を超えて 他者と協働して課題を解決	25%	37%

(3) 都市緑地科 3年

ア 取組内容

田布施町や熊毛郡の地域の特性を学習し、防災・減災面から農業土木や造園の知識を生かして、高校生が地域に貢献できることは何かを探究した。

また、探究成果を校内外へ発信することをとおして、卒業後地域を支える職業人として必要な力を身に付ける。

イ 実施内容

年次	内容	場所
1年次	テーマを「防災について～環境フォトコンテストに参加しよう～」として、田布施町の課題を見つけ、写真で紹介した。また、防災グッズのアイデア（段ボールハウスキットや防災道具収納ベンチ等）と、歴史から防災を読み解く（河川と伝統行事のかかわり等）ことに取り組み、それぞれ発表した。	田布施町郷土資料館、田布施地域交流館、校内
2年次	テーマを「地域の土地利用や防災上の課題を探究する」として、地域の方に役立ててもらえる防災新聞「のうこう防災新聞」を作成するため、各テーマに沿った情報収集を行い、計画を立てた。 また、田布施地域交流館の敷地内にある駐車場を見学し、同敷地内に防災公園を設計・計画するプロセスを学んだ。	田布施町郷土資料館、田布施地域交流館、田布施町役場、校内
3年次	テーマを「地域防災・減災プロジェクト～緑のまちづくりをめざして～」として、「のうこう防災新聞」を毎月発行し、全校クラスに掲示した。また、田布施町役場にも掲示するなど、町内にも情報を発信することができた。昨年度から取り組んできた防災公園をデザインし、発表会を行った。 学校がある田布施町波野地区に関する防災を調査し、土砂災害・堤防の崩壊・河川氾濫などを研究した。校内の防災訓練時には、全校生徒に防災について講話をするなど、校内外に防災・減災を普及する機会を持つことができた。	田布施地域交流館、田布施町役場、城南小学校

ウ 実施協力機関

田布施町郷土資料館、田布施地域交流館、田布施町役場企画財政課、城南小学校、西日本短期大学緑地環境学科

エ 活動の様子



オ 事業の活動項目

- 施設等の視察・見学 研究活動 商品開発 討論会
 農産加工物販売 アンケート調査 課題ノート K J 法
 大会・競技会参加 製作物展示 ICTの活用 発表会

カ 結果（アウトプット）

- ・ 地域の方と交流しながら、地域のことを直接自分の目で見て、知ること
でコミュニケーション能力や実践力が身に付いた。
- ・ 「のうこう防災新聞」の校内掲示、田布施町役場への掲示をとおして、
情報発信の大切さを理解した。
- ・ 防災公園設計計画をとおして、デザインから図面の完成までをひとり
で行うことで、設計計画の流れを理解し、計画性が身に付いた。
- ・ 学習成果発表会では、地域の方に研究内容を分かりやすく伝えること
で、防災・減災の啓発を行うことができた。

キ 成果（アウトカム）

（ア）生徒の変容（アウトカム）

育成する地域人材像（地域の未来を支える）	
地域産業の担い手として幅広い知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の土木関連企業への就職者が増加した。 ・ 地域の防災、減災について知識を得ることができた。
Society5.0時代に柔軟に対応できる創造力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災図面の設計をとおして、地域活性化に繋げる創造力や実践力の育成が図られた。
世代を超えて他者と協働して課題を解決	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の外部講師から、講演や意見交換をとおして、コミュニケーション能力を図ることができた。

（イ）地域での成果

取り組む地域課題（地域活性化の取組）	
地域情報の発信力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災公園設計の取組の様子を受け、町から花壇デザインの依頼を受け、後輩に引き継ぐことができた。
農林水産業の担い手の確保と育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災・減災の知識を持つ高校生の育成を図ることができた。
地域コミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校連携において、専門科目で培った知識を小学生に教えることができた。

ク 事業の評価※生徒アンケートより（身に付いたと感じた生徒の割合）

	取組前	取組後
地域産業の担い手として幅広い知識・技術	39%	57%
Society5.0時代に柔軟に対応できる創造力	28%	54%
世代を超えて他者と協働して課題を解決	39%	53%

(4) 機械制御科 3年

ア 取組内容

1年次は、田布施町の散策やRESAS及び、地元企業について研究した。

2年次には3年生が行っている研究内容をどのように発展させれば、地域の問題解決につながられるか検証した。併せて知的財産権についての学習を深め、本校の持つ技術の利用方法についても考えた。

3年次にもものづくりの技術や知的財産権を生かして、地域における問題解決を図るとともに、各種コンテストに参加することで自らの実践力を磨き、そこで得た技術を各種工作教室で地域に還元した。

イ 実施内容

月日	内容	場所
1年次	「田布施町のためにできること」と題し、町の『わくわく』と『がっかり』について調べ、発表した。関連して町内の企業についても学習した。	田布施町内、校内
2年次	「私たち田布施の工業高校生です」と題し、デザインパテントコンテストや知財甲子園に参加することで知財学習を深め、自分たちの研究の付加価値を高める手立てを考え、「田布施」を広める活動を行った。	田布施町内、校内
3年次	「農工が動けば雷電の如く」と題し、これまでの取組を課題研究で実践した。1年次に構想した堆肥温水器を実際に製作し、パテントコンテストに出品した。地域協働×ものづくり、地域協働×知財学習を深めるために、学習、工作教室も多数実施するとともに、コンテストに複数参加した。	田布施町内、校内、マリンメッセ福岡、イオンモール新居浜

ウ 実施協力機関

田布施町役場企画財政課、田布施町教育委員会、田布施町観光協会、一般社団法人山口県発明協会、山口大学、日刊工業新聞社、有限会社山口ティール・エル・オー、富士ソフト株式会社

エ 活動の様子



オ 事業の活動項目

- 施設等の視察・見学
- 研究活動
- 商品開発
- 討論会
- 農産加工物販売
- アンケート調査
- 課題ノート
- K J 法
- 大会・競技会参加
- 製作物展示
- ICTの活用
- 発表会

カ 結果（アウトプット）

- ・ 開発品（堆肥温水器、酒粕堆肥）をパテントコンテストに出品した。
- ・ オリジナルの工作キットを開発し、多数工作教室を実施することで知財学習やプログラミング学習を広めることができた。
- ・ 社会人向けの研修会やものづくりフェアに参加することで企業活動について学び、自分たちの研究を深めることができた。
- ・ 観光協会の方など地域の人と交流することで地域の魅力を知ることができた。
- ・ 各種大会に参加することで「田布施町」の魅力を発信することができた。

キ 成果（アウトカム）

（ア）生徒の変容（アウトカム）

育成する地域人材像（地域の未来を支える）	
地域産業の担い手として幅広い知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の問題点や特色を理解し、自分たちのアイデアで問題解決に取り組めた。 ・ 溶接などの基礎技術を利用して、設計から製品づくりまで行った。
Society5.0時代に柔軟に対応できる創造力	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンテスト等への参加を通じて実践力が身に付いた。 ・ J-P l a t P a t 等を活用して産業財産権情報を収集し、自身のアイデアと比較し、分析・改善する力が身に付いた。
世代を超えて他者と協働して課題を解決	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラスメイトのみならず、地域の方、企業の方に自らの考えを伝え、意見を求めることができた。 ・ 後輩や小中学生に技術指導をすることで、伝える力が身に付いた。

（イ）地域での成果

取り組む地域課題（地域活性化の取組）	
地域情報の発信力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ ものづくりフェアに参加し、本事業の活動を広めた。様々なロボット大会やコンテストにおいて活躍することで、町名を発信できた。 ・ 本校を会場としたロボット大会兼技術研修会を実施することで、田布施町に人を集めることができた。
農林水産業の担い手の確保と育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工業科生徒が農業科の生徒や農業従事者の方と連携を図ることで、農業の問題点や価値について考えることができた。
地域コミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田布施町少年少女発明クラブなどのコミュニティに積極的に参加できた。工作教室や知財学習会を行うことで新たなコミュニティづくりを進められた。

ク 事業の評価※生徒アンケートより（身に付いたと感じた生徒の割合）

	取組前	取組後
地域産業の担い手として幅広い知識・技術	57%	27%
Society5.0時代に柔軟に対応できる創造力	34%	24%
世代を超えて他者と協働して課題を解決	41%	24%

5 4 学科連携の取組

(1) 取組内容

4 学科が連携し、地域の拠点である田布施地域交流館の魅力化を目標として、イベント実施や、商品開発、防災公園の設計、モニュメント作りなどに取り組んだ。

(2) 実施内容

月日	内容	場所
1 年次	「田布施あいレポート」に取り組みながら、地域の課題について調査をした。また、学年発表を行い、学科を超えた話し合いの場を設けた。	校内、 田布施町内
2 年次	コンソーシアム委員や、地域の企業と連携しながら、課題解決に向けた調査・活動に取り組んだ。	校内、 田布施町内
3 年次	各科の特色を生かした連携をとおして、地域交流館を拠点とした活動に取り組んだ。 A科：小学校と連携したイベントの実施 F科：田布施町特産品レシピ開発 E科：防災公園の設計、町内の防災調査、「のうこう防災新聞」の発行 M科：地域に役立つモノづくり、サイクリングマップやモニュメント作り	校内 田布施町内
学期毎	学年報告会を実施	校内
年度末	運営指導委員会等への参加と活動報告	校内
通年	学校ホームページを活用し、活動の情報発信	校内

(3) 実施協力機関

田布施町役場、田布施町地方創生検討委員会、田布施町郷土館、農水省中国四国農政局南周防農地整備事業所、山口県農林総合技術センター農業担い手支援部、城南小学校、アグリ南すおう株式会社、齋藤牧場、協同組合田布施地域交流館、山口大学、株式会社井森工業、株式会社朝日製作所

(4) 活動の様子



(5) 事業の活動項目

- 施設等の視察・見学
- 研究活動
- 商品開発
- 討論会
- 農産加工物販売
- アンケート調査
- 課題ノート
- K J 法
- 大会・競技会参加
- 製作物展示
- I C T の活用
- 発表会

(6) 結果 (アウトプット)

- ・ 4学科が連携して、商品開発やイベントの企画など地域交流館を拠点とした活動に取り組むことができた。
- ・ RESASを活用しながら、情報収集や分析する能力を身に付けることができた。
- ・ 学びを深めるための教科横断的な学習が展開されたことにより、幅広い知識・技術が深まり、自己肯定感の向上につながった。
- ・ 知的財産について学び、商品開発やパテントコンテストに生かすことができた。

(7) 成果 (アウトカム)

ア 生徒の変容 (アウトカム)

育成する地域人材像 (地域の未来を支える)	
地域産業の担い手として 幅広い知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を分析して行動計画の立案や、ICTを活用して情報発信する力が身に付いた。 ・町の現状について調査し、何が課題か考察する力が身に付いた。
Society5.0時代に柔軟に対応できる 創造力	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、ICT活用しながら情報収集し、SDGsを意識した企画運営など、社会情勢に合わせた創造力が身に付いた。
世代を超えて 他者と協働して課題を解決	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生から地域住民まで幅広い世代との交流の中で他者を理解し、対象年齢に合わせた企画や運営を行う力及び、コミュニケーション能力が身に付いた。

イ 地域での成果

取り組む地域課題 (地域活性化の取組)	
地域情報の発信力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページや、新聞などのメディアをとおして活動をPRすることができた。
農林水産業の担い手の確保と育成	<ul style="list-style-type: none"> ・農業や商品開発に取り組む中で、地域の農業法人や食品会社、中小企業等への興味関心が深まり、地域産業への就職内定者が増加した。
地域コミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化の活動をとおして、地元産業や消費者など様々な立場のコミュニティをつなげることができた。

ウ 事業の評価※生徒アンケートより (身に付いたと感じた生徒の割合)

	取組前	取組後
地域産業の担い手として 幅広い知識・技術	46%	45%
Society5.0時代に柔軟に対応できる 創造力	33%	33%
世代を超えて 他者と協働して課題を解決	37%	35%

5 生徒あい³委員会の取組

(1) 取組内容

4学科、全学年が情報共有をしながら学校全体での活動を充実させるため結成された。委員会の主な機能として、「情報発信」・「交流活動」・「評価分析」・「企画運営」の4つを軸として活動した。学期ごとにアンケートの実施と全校へのフィードバックとして「あい³通信」を定期的に発行や、動画を作成など校内外の連携を強めるための活動の展開や、コンソーシアムや各種発表会などを活用した情報発信に力をいれた。

(2) 実施内容

年月日	内容	場所
令和2年6月	2年生対象、生徒あい ³ 委員を募集	校内
7月中旬	アンケート、ループリック評価の作成	校内
9月上旬	アンケート、ループリックを実施	校内
10月中旬	田布施View会議に参加	校内
令和3年4月	全学年から委員を募集し、活動を実施	校内
7月下旬	地方創生フォーラムin山口にて活動発表	校内
8月上旬	山口大学キャンパス見学、活動発表	山口大学
10月30日	全国産業教育フォーラムにて発表	オンライン
12月17日	学習成果発表会の実施	校内
10月、12月	田布施View会議に参加	校内
通年	アンケート調査、あい ³ 通信の作成と発行	校内
	運営指導委員会等への参加と活動報告	校内

(3) 実施協力機関

田布施町役場、田布施町地方創生検討委員会、田布施町郷土館、農水省中国四国農政局南周防農地整備事業所、山口県農林総合技術センター農業担い手支援部、田布施中学校、アグリ南すおう株式会社、齋藤牧場、協同組合田布施地域交流館、山口大学、株式会社井森工業、株式会社朝日製作所

(4) 活動の様子



(5) 事業の活動項目

- | | | | |
|---|---|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 施設等の視察・見学 | <input checked="" type="checkbox"/> 研究活動 | <input type="checkbox"/> 商品開発 | <input checked="" type="checkbox"/> 討論会 |
| <input type="checkbox"/> 農産加工物販売 | <input checked="" type="checkbox"/> アンケート調査 | <input type="checkbox"/> 課題ノート | <input type="checkbox"/> KJ法 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 大会・競技会参加 | <input checked="" type="checkbox"/> 製作物展示 | <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 | <input checked="" type="checkbox"/> 発表会 |

(6) 結果 (アウトプット)

- ・ アンケート結果を基に、課題点について協議し、改善策を考える力や他者と協議する力が身に付いた。
- ・ ルーブリック評価の結果を分析し、活動の活性化をめざして、学年をこえた話し合いや活動の見直し及び、修正を行った。
- ・ 山口大学訪問時や、コンソーシアムなどで活動報告や意見交換を経験し、幅広い年代とのコミュニケーション能力が身に付いた。
- ・ 田布施View会議では、地域の方と一緒に田布施町の過去の振り返りや未来について積極的に話し合いをすることで、幅広い視野や知識、表現力などを高めることができた。また、農工生として、どのように街づくりに関わっていくかを検討しながら、全体場で意見を発表することができた。
- ・ 生徒の前向きな取組姿勢について外部から高評価をいただき、次年度も継続して連携をしていきたいという参加者からの要望があった。

(7) 成果 (アウトカム)

ア 生徒の変容 (アウトカム)

育成する地域人材像 (地域の未来を支える)	
地域産業の担い手として 幅広い知識・技術	<ul style="list-style-type: none">・ コンソーシアムなど、地元企業の方と交流する中で地域産業の現状を知り、課題発見力が向上した。・ 将来、地域に貢献したいという目標につなげることができた。
Society5.0時代に柔軟に対応できる 創造力	<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍に対応した企画運営や、ICTを活用した発表など、柔軟な運営力が身に付いた。・ 今後の活動展開について、幅広い視点からの創造力が高まった。
世代を超えて 他者と協働して課題を解決	<ul style="list-style-type: none">・ 学科・学年をこえた委員会の体制により、4学科の視点から活動を深めていくことができた。・ コンソーシアムや田布施View会議などで、幅広い世代と交流しながら「田布施町総合計画」について話し合いを行うことができた。

イ 地域での成果

取り組む地域課題 (地域活性化の取組)	
地域情報の発信力の強化	<ul style="list-style-type: none">・ コンソーシアムで活動内容を発信することによって、さらなる連携の強化につながった。・ 動画やポスター制作、ホームページへの掲載、大会等での発表により、様々な関連機関から連携の問い合わせや協力の申し出があり、発信力を強化することができた。
農林水産業の担い手の確保と育成	<ul style="list-style-type: none">・ 地域の企業との関わりをとおして、地域や企業の魅力を知り、県内就職希望者が増加した。
地域コミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none">・ コンソーシアムや田布施View会議などの活動をとおして、学校活動への理解が深まり協力者が増え、コミュニティが広がった。

7 普通教科の取組

- (1) 科目 英語会話
食品科学科 2年



ア 取組内容

食品科学科で取り組んでいる地域連携の活動が、SDGsの視点でどのように関連しているかを学び、その取組を英語で表現する。ジャマイカ出身の外国語指導助手により、SDGsの出身国及び、世界での取組事例について、英会話で紹介するとともに、ロールプレイで理解を深める。

また、今自分が身近で取り組んでいること、これから自分ができることや取り組みたいことについて、簡単な英語で表現し、1人1台タブレット端末を活用して、英文を入力して全員で共有する。

イ 実施内容

月日	内容	場所
6月1日	SDGsを自分事ととらえ、これから自分ができることや、今現在取り組んでいることについて簡単な英語を使って表現する。	校内

ウ 活動の様子

SDGsに関する活動について、グループ対抗ゲーム形式で学んだ。限られた英単語を活用して、積極的に参加していた。外国語指導助手による英語での世界の取組例の紹介を聞き取るリスニング活動にもなった。細かい内容まで理解できない生徒もいたが、これまでの知識を活用し、1文ではあるが簡単な英語を使い表現するなど、積極的に取り組んだ。

エ 結果 (アウトプット)

自分たちが取り組んでいる地域連携について、SDGsの視点を加えながら、英語で表現することにより、英語力の向上やSDGsを自分事として考えるきっかけとなった。

- (2) 科目 課題研究・フードデザイン
食品科学科 2年 12名



ア 取組内容

課題研究及びフードデザインにおいて、地元食材を活用した災害時の調理方法を研究した。パッククッキングの基本を学習しながら、地域の規格外野菜を使用した乾燥野菜も加え、栄養価を高める調理方法を考えた。科目「食品製造」と連携しながら、保存食や災害時に地域の中で自分たちがどのように関わっていけば良いのか考え、実習した。

イ 実施内容

月日	内容	場所
6月3日	災害時の調理法であるパッククッキングについて、備蓄食品の缶詰や、地域の規格外野菜を使用した乾燥野菜を使った応用レシピを考え、災害時に役立つレシピカードを作成する。	校内

ウ 活動の様子

乾燥野菜や缶詰を使い、ごはんとおかずが一緒に取れる料理を一人1品考えた。また、後片付けに水を使えないことをイメージし、いかにゴミや洗い物を出さないかを工夫して取り組んだ。調理機器の使用制限や、皿にラップをするなど様々なアイデアで対応した。

エ 結果（アウトプット）

災害時における食の大切さを学び、非常時をイメージして食について考えた。また、地域の規格外野菜をどのように有効活用していくかを意見交換したりすることができた。実習をとおして、自分たちで考え創意工夫することや実践力が身に付いた。

(3) 科目 国語表現 3年（選択）



ア 取組内容

「ガラスの天井に触れた西日本新聞の社説（2019.5.27版）」を読み、これまでに学んできた「文章表現の基礎」「論理的思考」などを活用して、「ジェンダー平等」実現のためにできることを、それぞれが考えて作文を書く。論点の曖昧な生徒のために「男女格差」「セクハラ」など身近な問題を提示し、それらを材料として作文に取り組んだ。

イ 実施内容

月日	内容	場所
6月3日	新聞の社説を読み「ジェンダーの平等を実現するために必要なこと」というテーマの作文を書く。	校内

ウ 活動の様子

国語表現を選択して学習している生徒たちであり、一般的な作文は何度か練習してきているが、「ジェンダー平等」について意見文を書くのは初めてで戸惑う生徒も多く見られた。選択者のうち11名は女子生徒だが「ガラスの天井」を自身の問題に結び付けて考えるのは難しいようだった。

エ 結果（アウトプット）

多様性のある社会の実現に向けて「ジェンダー平等」に関し、自分なりに興味・関心を持つきっかけとなり、現在、取り組んでいる地域連携活動において、様々な立場の方の視点から重要性の理解につながった。

第4章 研究の効果とその評価

1 成果目標・活動指標の達成度

(1) 卒業までに生徒に習得させる具体的能力の定着状況を測るものとして、設定した定量目標からの進捗状況

ア 地域産業の担い手となるための、幅広い「知識・技術」を身に付けた人材

定量目標	成果	
	R 3	R 2
・生物生産科生徒が JGAP に対応した農業生産物を 5 品目以上栽培する。	1 品目	1 品目
・食品科学科生徒が食品製造において全品目 HACCP に対応する。	11 品目	1 品目
・食品科学科生徒を中心に開発商品を 5 品目以上商品化する。	13 品目	4 品目
・全ての生徒が 3 つ以上の専門的資格を取得する。	39%	28%
※ 2 つ以上の専門的資格取得した生徒	67%	65%

【評価】

食品製造の全品目（ジャム：8、味噌、クッキー、カップケーキ）HACCP 対応や開発商品の商品化（クレープ：4、弁当：1、総菜：2、スムージー：3、スープ：3）の実現は、地域課題の解決に向けた実践活動等の成果であると考えられる。JGAP においては、セルリーで JGAP 認証を取得することができ、資格取得状況においても昨年度より上昇するなど、3 年間の取組により、生徒へ着実に知識・技能の定着を図ることができた。今後も地域課題解決学習を通じた活動の充実を図っていきたい。

イ Society5.0 時代を迎え、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力を習得し、産業の変化に柔軟に対応できる創造力を持った人材

定量目標	成果	
	R 3	R 2
・地域に関する研究において、グループのアイデアを実践し、日々の記録をとり、振り返ることができる生徒が 100%	100%	100%
・地域経済分析システム (RESAS) を用いて、地域の現状を分析できる生徒が 80%以上	100%	94%
・将来、人の役に立ちたいと考える生徒が 100%	56.5%	55%

【評価】

「将来、人の役に立ちたいと考える生徒」は、半数程度にとどまっている。これは、コロナ禍において地域との協働活動が制限されたことが要因の一つであると捉えている。今年度は、昨年度整備された 1 人 1 台タブレット端末等を活用して、リモート交流学习などに取り組んだが、対面での活動と比較すると達成感が不足したと推測される。今後も新型コロナウイルスの影響が続くことが予想されることから、

ICT等を効果的に活用しながら、地域課題解決学習の充実を図る必要がある。

ウ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」を身に付け、多様な集団の中、世代を超えて協働できる人材

定量目標	成果	
	R 3	R 2
・社会貢献活動等地域活動に携わる生徒が100%	100%	100%
・プレポスト*の自己評価により、自らの成長を実感できる生徒が100% ※プレポスト…事前事後	73%	87%
・将来地域に貢献したいと考える生徒が90%以上	73%	78%

【評価】

「生徒あい³委員会」を核とした学科の枠を越えた情報交換や啓発活動の取組は、全生徒の社会貢献活動に携わる意識の向上に繋がるなど、本事業の推進に大きな役割を果たした。しかしながら、定量目標として掲げているプレポストの自己評価では、昨年度より数値が減少している。これは活動の中で、自身の取組に対して、より高い目標を定めているため、生徒自身が学習成果を実感できず、自己評価を低く捉えている可能性が高いと思われることから、取組の達成内容を具体的に示すなど活動評価を整理して、評価方法を見直す必要がある。

エ 高校卒業後の地元への定着状況を測るものとおして、設定した成果目標

定量目標	成果	
	R 3	R 2
・田布施町及び近隣市町での就業を希望する生徒が80%以上	92%	57%
・卒業後に県内就職を希望する生徒が95%以上	92%	73%
・関連産業の就業を希望する生徒が70%以上	59%	50%
・卒業後もそれぞれの地域での社会貢献活動に携わりたいと考える生徒が50%以上(消防団、農業ボランティア、やまぐち社会貢献支援ネット等)	60%	63%

【評価】

9割以上の生徒が、将来地元での就職を希望しており、関連産業への就業希望についても、昨年度より数値は上昇している。これは、本事業の取組により、地域の産業への関心が高まったことが要因の一つと考えている。卒業後の社会貢献活動への参画意識も目標を上回っており、今後も地域との協働活動において、目標となる大人や生きがいとなる活動に出会えるよう、生徒の状況を踏まえながら、内容を工夫していく必要がある。

オ その他本構想における取組の成果目標

定量目標	成果	
	R 3	R 2
・以下の各イベントの参加者数（延べ）を300名／年以上 「ものづくり教室」「防災教室」「どぶろくイベント」「たぶせ農園」等	300名	133名
・その他学校イベントの参加者数（延べ）3,000名以上	835名	700名

【評 価】

ものづくり教室や防災教室など、感染防止対策を行いながら地域と協働した様々な研修や講座、協議などに対面に取り組むとともに、1人1台タブレット端末等を積極的に活用して、小学校とのリモート学習交流会等を開催するなど、ICTを効果的に活用することで、地域と連携して活動を推進することができた。しかながら、その他学校イベントについては、農工祭などの集合型イベント等を、縮小または中止としたため、目標を達成するには至らなかった。今後も、コロナ禍におけるイベントの実施方法について研究を深めていく必要がある。

(2) 目標設定シート

※2019年度、2020年度、2021年度の()内は目標値

2021年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定 (アウトカム)						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 一人あたりの専門的資格の取得数						単位: 個(合計)
a	本事業対象生徒:		0.87(1)	0.7(1)	1(1)	3(2.6)
	本事業対象生徒以外:	1.3	0.8	0.89(1)	1.35(1)	1(1)
目標設定の考え方: 各専門学習で得た知識・技術を向上させる。						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 付加価値の高いブランド力のある地域商品をめざして商品を開発・商品化する。						単位: 品(合計)
a	本事業対象生徒:		0	1(2)	6(3)	5(7)
	本事業対象生徒以外:	0	1	2(1)	3(0)	0(0)
目標設定の考え方: 商品開発を目指して探究的学習を進める。						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 知的財産権の登録をする。						単位: 個(合計)
a	本事業対象生徒:		0	1(1)	0(2)	3(1)
	本事業対象生徒以外:	0	0	0(0)	0(0)	0(0)
目標設定の考え方: 知的財産権に関する知識や取得の手法を身に付ける。						
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 地域経済分析システム(RESAS)を用いて地域の現状を分析できる。						単位: %
a	本事業対象生徒:		70(50)	94(75)	100(100)	100(100)
	本事業対象生徒以外:		22(0)	66(10)	100(20)	
目標設定の考え方: 商品開発を目指して探究的学習を進める。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 就職希望者の中で県内就職を希望する生徒の割合						単位: %
b	本事業対象生徒:		72(85)	73(90)	91(95)	95(91)
	本事業対象生徒以外:	86	91	80(80)	74(85)	77(90)
目標設定の考え方: 地域で働き、貢献したいという思いを高める。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 就職希望者の中で県内就職する生徒の割合						単位: %
b	本事業対象生徒:		—	—	91(93)	93(91)
	本事業対象生徒以外:	86	91	85(85)	88(88)	96(90)
目標設定の考え方: 地域で働き、貢献したいという思いを高める。						
(その他本構想における取組の達成目標) 地域で社会貢献活動等に取り組む生徒の割合						単位: %
c	本事業対象生徒:		20(20)	50(50)	100(100)	100(100)
	本事業対象生徒以外:	10	10	10(10)	50(10)	100(20)
目標設定の考え方: 地域に貢献したいという気持ちを高める。						

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標 (アウトプット)						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
a	(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 発明クラブ等、生徒による各教育活動を行う(開催回数)。					単位:回(延べ)
	3	6	13(10)	27(12)	49(30)	70(89)
目標設定の考え方:地域での活動を一層促進する。						
a	(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 大学や企業等と共同研究を行う(連携事業所数)。					単位:箇所(延べ)
	10	10	7(10)	12(12)	18(15)	34(37)
目標設定の考え方:課題発見から問題解決までを地域の中で実践的体験的に学習する。						
b	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 田布施町で研究等活動の発表会を行う(発表回数)。					単位:回(延べ)
	1	1	2(2)	3(2)	11(5)	10(16)
目標設定の考え方:研究等活動を関係者以外にも発表する。						
b	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 田布施町以外で教員及び生徒が研究等活動の発表を行う(発表回数)。					単位:回(延べ)
	7	9	10(10)	9(12)	15(15)	37(38)
目標設定の考え方:研究等活動の成果を多くの人に周知する。						
b	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 成果報告書を配付する(配付先数)。					単位:箇所(延べ)
	10	10	200(200)	200(200)	250(250)	650(650)
目標設定の考え方:研究等活動の成果をより多くの人に周知する。						
c	(その他本構想における取組の具体的指標) 年2回以上他教科の授業を参観し、授業研究を実施する教員の割合					単位: %
			44(80)	38(90)	48(100)	100(48)
目標設定の考え方:教員が積極的に授業改善に取り組む。						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標 (アウトプット)						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
a	(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 地域課題研究又は発展的な実践に協働する地域の外部人材の参画					単位:人(延べ)
	3	2	13(10)	58(12)	91(60)	82(162)
目標設定の考え方:より多様な外部人材と協働する。						
a	(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 地域と協働して活動する(地域に出た回数)。					単位:回(延べ)
	40	47	56(40)	44(55)	77(60)	155(177)
目標設定の考え方:地域での協働活動を促進する。						
d	(その他本構想における取組の具体的指標) 学校を訪れる地域の人の人数					単位:人(延べ)
	2700	2600	2900(2700)	700(2800)	835(3000)	8500(4435)
目標設定の考え方:学校に親しみを持ち、学校行事に参加する地域の人を増やす。						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数(人)	410	414	419	397	371
本事業対象生徒数			105	193	279
本事業対象外生徒数			314	204	92

2 本事業の効果測定

(1) 測定方法

学期毎に、以下の「ア・イ・ウ」のアンケート調査を用いて生徒の変容を図った。

ア 2021年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業生徒対象事前アンケート

イ 2021年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業生徒対象事後アンケート
(三菱UFJリサーチコンサルティング(株)「学校魅力化アンケート」を参考にした)

ウ あい³プロジェクト ルーブリック自己評価アンケート

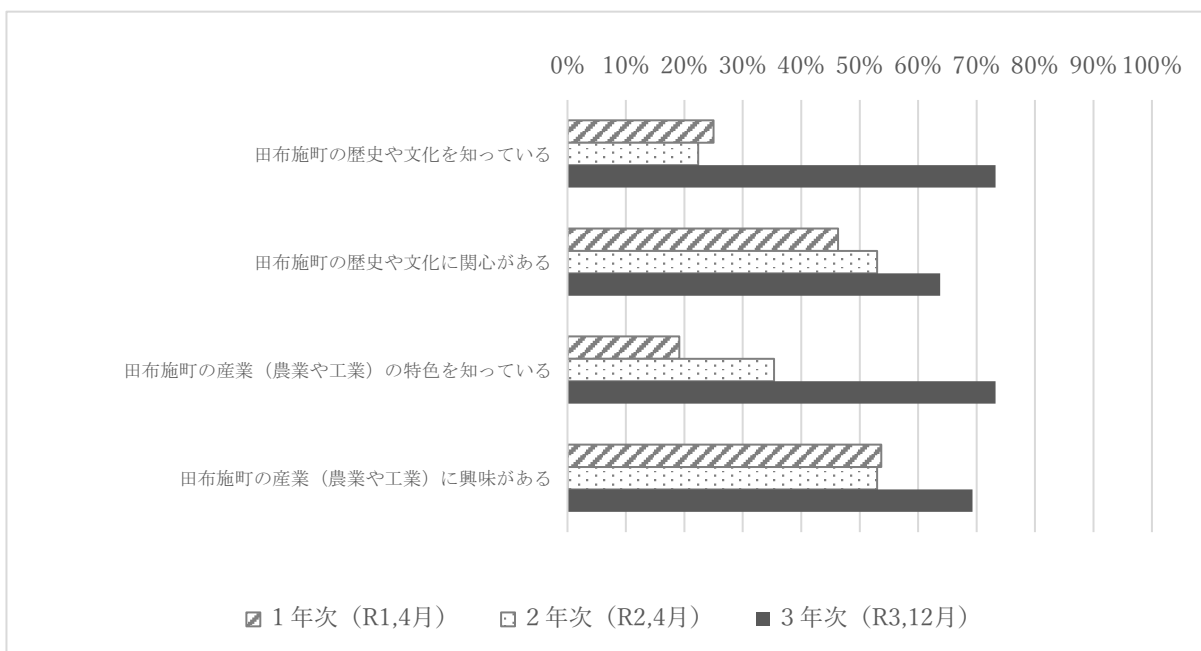
(2) 調査結果

各項目において、生徒の変容から成果と課題を考察した。

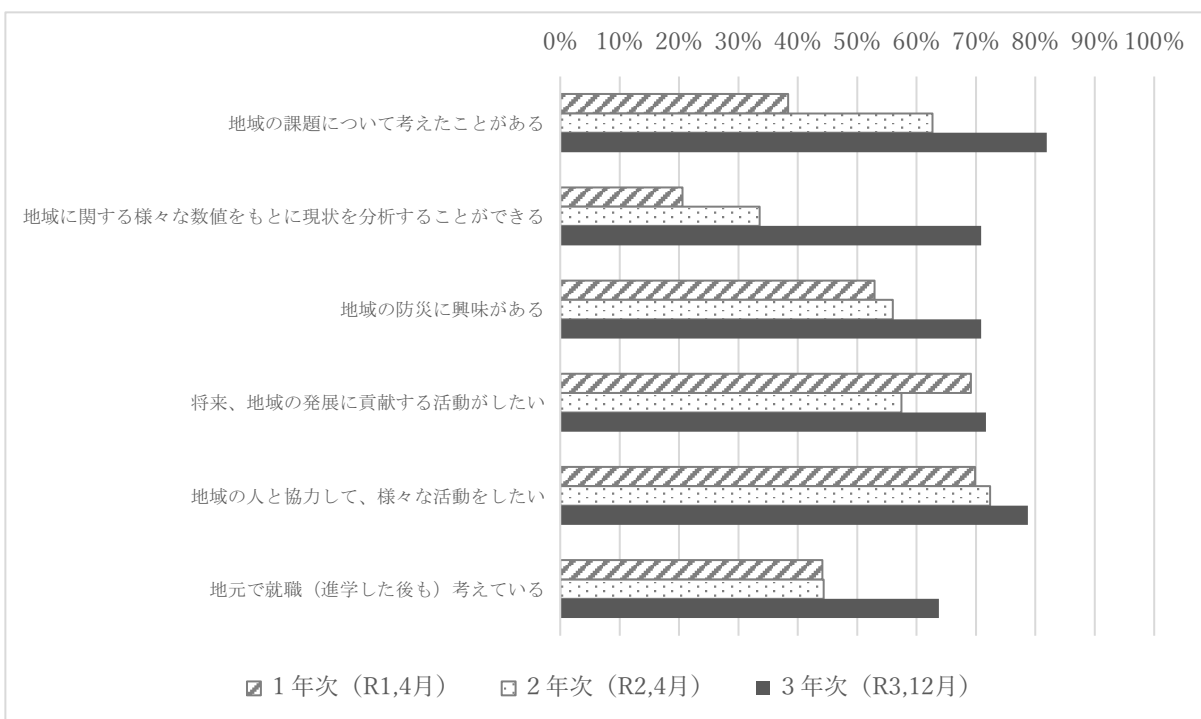
ア 令和元年度入学生を対象とした3年間の変容

(2021年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業生徒対象事前アンケートより)

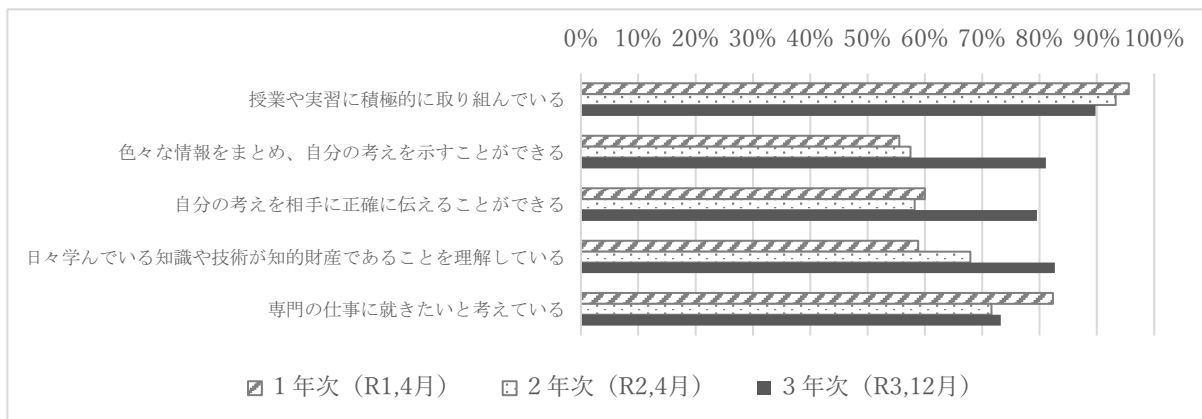
(ア) 田布施町に対する意識について



(イ) 地域に関する意識について



(ウ) 自分自身のことについて



【成果】

3年間の活動により、田布施町の歴史や文化、産業の特色などについて、7割以上の生徒が理解を深めている。また、田布施町役場など関係機関や地域の方と活動を通じて田布施町について興味・関心を高めた。

「地域に関する様々な課題をもとに現状を分析することができる」と答えた生徒が、3年間で50ポイント以上も増加しており、科学的に現状を分析する力がこの3年間の取組で身に付いたと考えられる。

【課題】

「学んだことを活かし、専門の仕事に就きたい」と考える生徒が減少している。これは、地域の多くの課題に触れることで、やりたいこと、仕事にしたいことが変化したと考えられる。

「授業や実習に積極的に取り組んでいる」の項目について、年を重ねる度に評価が低くなっている。これは活動の中で、自身の取組に対して、より高い目標を定めているため、生徒自身が取組成果を実感できず、自己評価を低く捉えている可能性が高いと思われることから、取組成果について、具体的に示すなど活動評価を整理して、アンケートの内容を見直す必要があると考える。

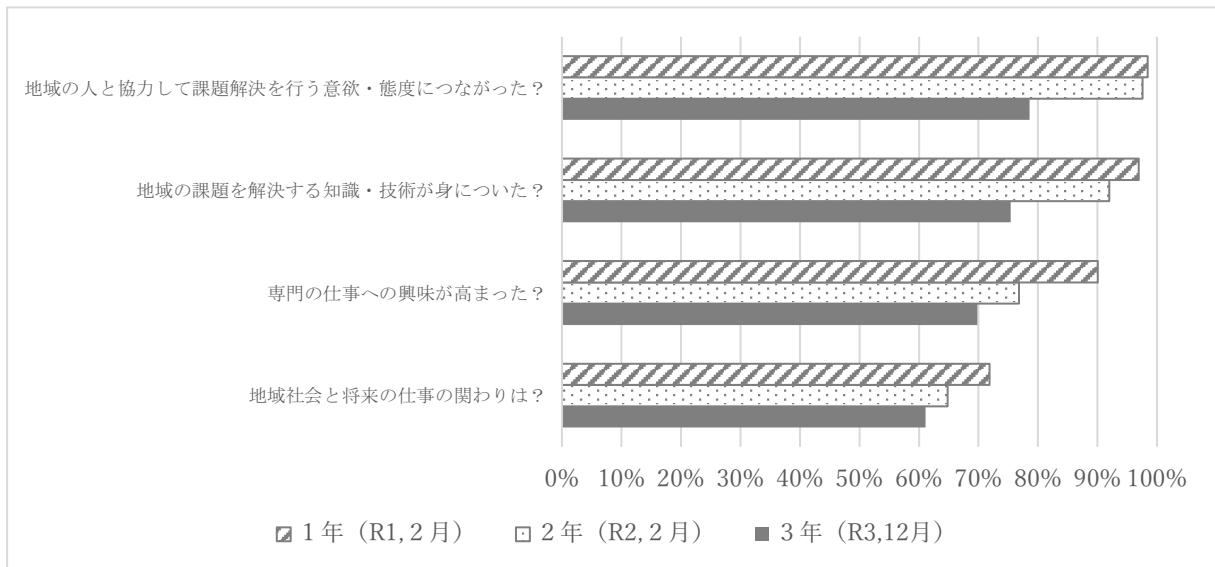
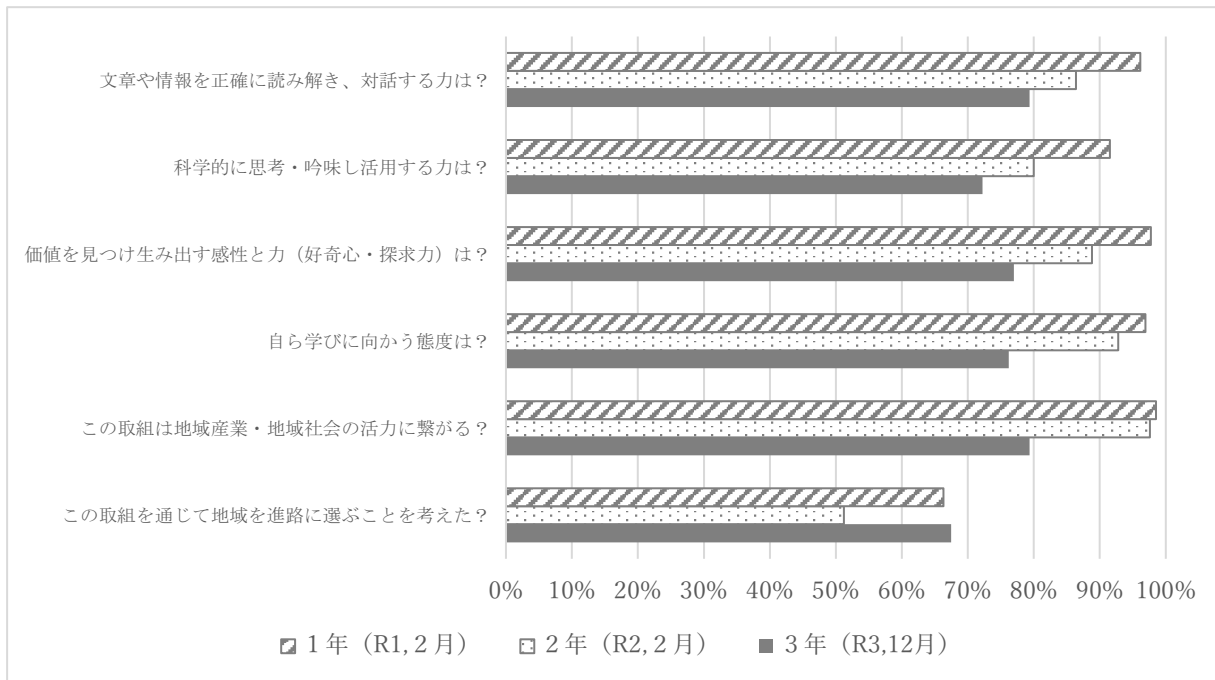
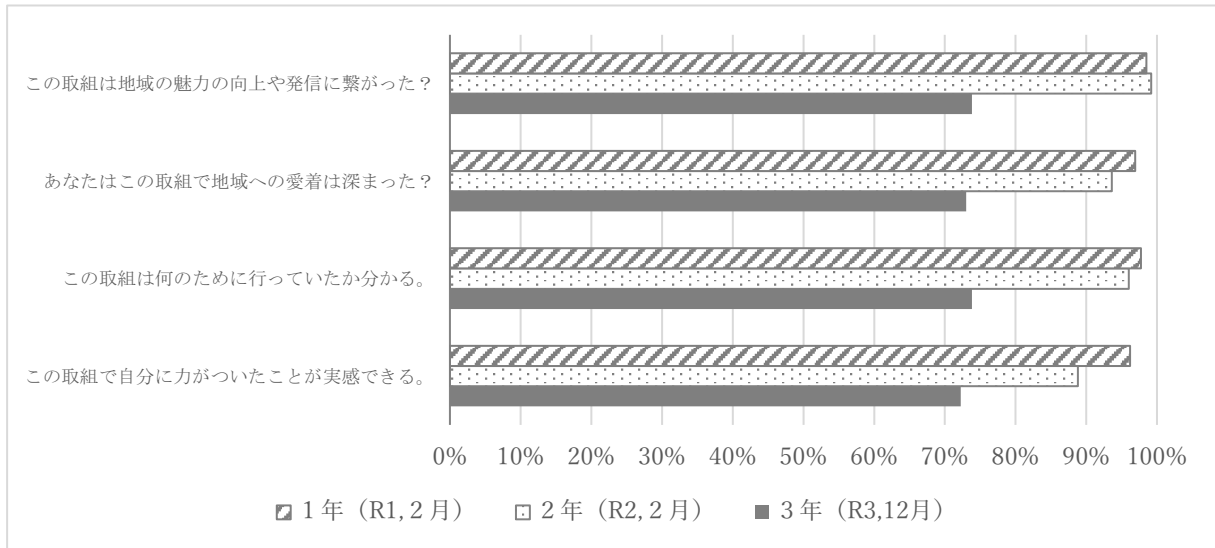
【対応】

地域との協働学習を通じて、自らの進路を真摯に考える機会となっている。専門教育の充実や協働学習と並行して基礎学力も高めることで、大学や就職における企業を選択において、選択肢の幅が広がるよう指導に努めたい。併せて、生徒が目標値を的確に示せる調査項目の見直しを適宜、行うことで進路におけるミスマッチを減らしていきたい。

また、小中学校との交流事業において、田布施町の様々な魅力を発信することが、幼少期から継続したキャリア教育につながると考える。そのことにより、令和3年度より参加している、「田布施町地域協育ネット」との連携がより深まると考える。

イ 令和元年度入学生を対象とした3年間の変容

(2021年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業生徒対象事後アンケートより)



【成果】

「地域産業の担い手通して幅広い知識・技術を有する人材の育成」において、取組についてループリック評価を作成し、その結果を分析して活動の見直し、さらなる高い目標を設定するなど、PDCAサイクルを実践する力が身に付いた。アンケート結果では、全体の項目の評価は減少したが、これは生徒自身が取組に対して、より高い目標を定めているため、学習成果に実感できず、自己評価を低く捉えている可能性が高いと考えられる。数値的には、減少した結果となったが、生徒の目標値が高いことの表れであり、より高い目標に向けた向上心がうかがえる。

「地域社会と将来の仕事の関わり」において、対象生徒の進路は、進学・就職ともに例年と比較して、専門関連への進路選択が増加した。特に本プロジェクトで連携した農業法人へ就農するなど担い手の育成につながった。また、卒業後に「田布施町でのボランティア活動に関わっていきたい」と多くの生徒が希望するなど、地域を愛し、地域に貢献したいという心の醸成を図ることができた。

【課題】

自分の専門性をどのように生かし、貢献できるか悩む生徒が多い。今年度は専門性を生かした進路を選択した生徒が増加したが、今後も地域との連携の中で、地域に根ざした担い手育成にむけて、生徒と専門性を生かせる地域の農業法人や関連企業・団体とのマッチングに努めたい。

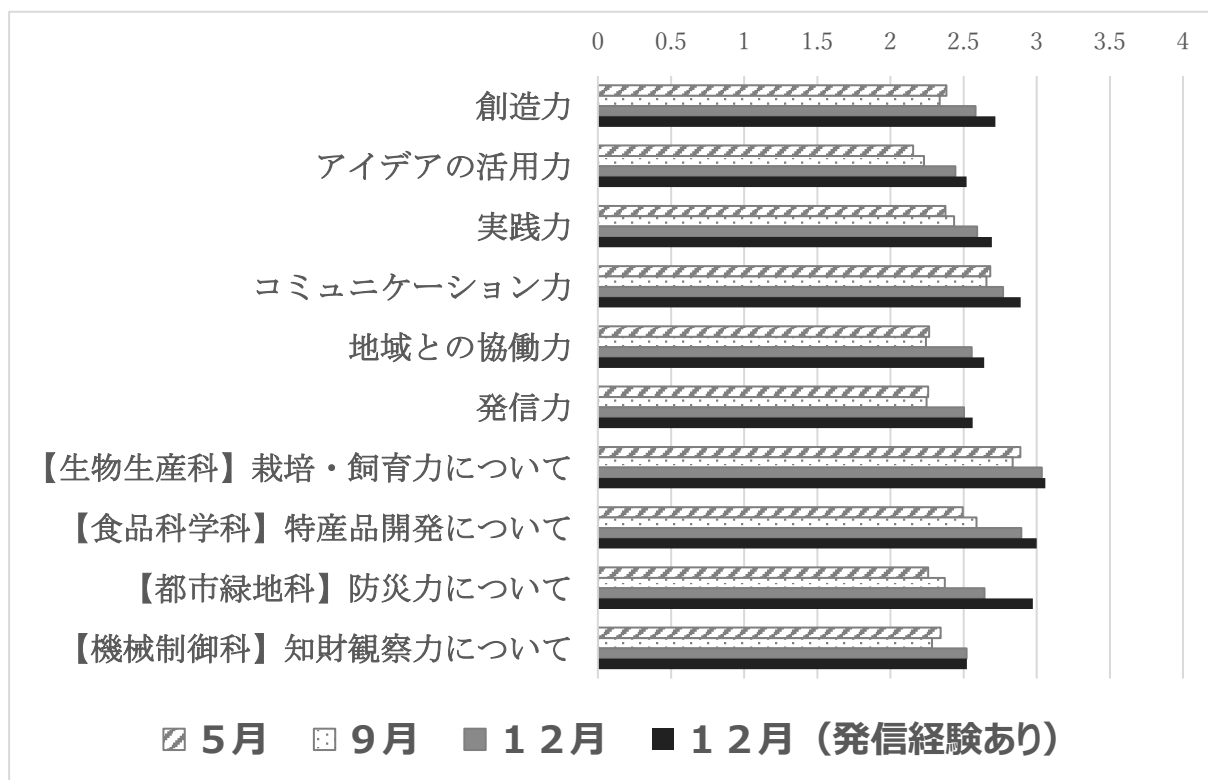
3年間での活動において、生徒の様々な意識の変化や成長を感じられた。しかし、生徒自身が、学習成果を実感できておらず、自己評価を低く捉えている。取組内容を具体的に示すなど活動評価を整理して、アンケート内容を見直す必要性がある。

【対応】

協働的な学習に加え、日頃の学習活動や部活動等にも一層力を入れることで、より充実した活動につなげていきたい。そのためには、学校全体での体制作りが必要である。今年度、英語科の教員が課題研究に関わることで、多様な視点から指導に取り組めた。これまで、1年生の総合的な探究の時間については、専門教科の教員を中心に指導してきたが、普通教科の教員とも連携をし、指導することで、生徒は幅広い視点で田布施町について学習活動することができた。今後も、学校全体での取組につなげていきたい。

さらに、アンケートの見直しや、地域で活躍している卒業生と連携することで、生徒が進むべき将来の姿について、イメージ化を図れるよう取り組みたい。

ウ 令和元年度入学生を対象とした3年次の変容
(あい³プロジェクト ルーブリック自己評価アンケートより)



【成果】

本事業で取り組む地域課題である、「①地域情報の発信力の強化」、「②農林水産業の担い手の確保と育成」、「③地域コミュニティづくり」に必要な力が育成できたかどうか評価するため、生徒あい³委員会がルーブリックを作成し、変容を見取った。

その中で「アイデアの活用力」の上昇率が高かった。これは、課題研究の中で4学科それぞれのアイデアを、コンソーシアム委員から御助言をいただきながら、実現に向けて、充実した活動とすることができたことが要因と考える。併せて、田布施町の特産品を活用した商品開発や防災新聞の発行、田布施町を拠点とした4学科の活動の展開を実施したことで、創造力、実践力、コミュニケーション力も付随して向上した。

【課題】

アンケートでは、4段階の「4」を選択する生徒がほとんどいなかった。これは、ルーブリック評価の目標基準において、具体的な達成度合を示していなかったことが原因と考えられる。

また、コロナ禍での活動が制限される中、外部との関わりを持つ生徒が一部に偏ったため、コミュニケーション力の向上した生徒にも偏りが見られ、全体的な向上につながらなかったことが課題である。今後はICTを活用した外部交流を積極的に行うなど、コロナ禍における活動の在り方についても検討が必要である。

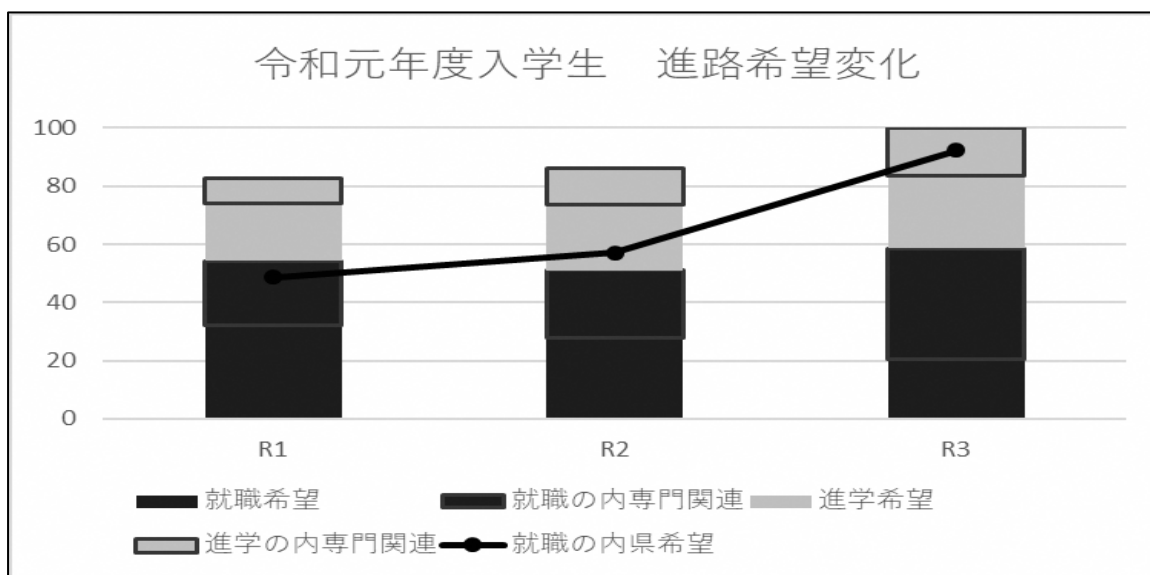
【対応】

本事業の取組内容は、計画に基づき実践することで、一定の成果を挙げることができた。今後は、生徒の実情等に合わせて計画を見直していくことが必要である。

新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式の中で、ICTを活用した交流などコミュニケーションの取り方も変化している。今後も、社会の実態に即した方法での関係機関との交流の在り方について検討し、コミュニケーション能力の育成を図りたい。

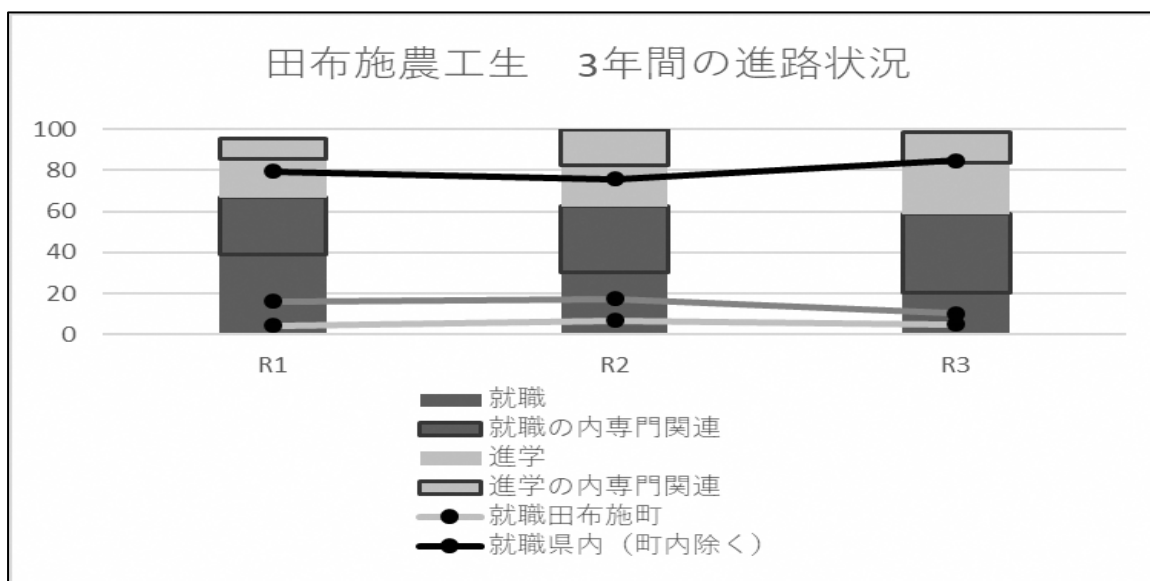
3 進路実績から見た意識変化

(1) 令和元年度入学生の進路希望の変化



入学当初から比較すると専門教科に就職先の職種への就職及び進学を希望する生徒が増加した。また、就職においては、県内を希望する生徒が増加している。本事業において、地域産業について学んだことや自学科の学習を実践的に学ぶことで地域産業の担い手として意識が芽生えたと考えられる。

(2) 本校における過去3年間の進路状況変化



本年度を含めた過去3年間の進路状況を示している。県内就職希望者の割合は86%であり、これまでも比較的高かったが、本事業により3年間、地域と連携した学習に取り組んだ令和3年度の卒業生の県内就職率は、89.7%となり、過去最高値を示した。

また、関連企業への就職割合は、生物生産科で就職希望者の40%、都市緑地科では61%と例年に比べ、特に上昇している。自分たちが学んでいることに対する自信や誇りが持てたことに加え、地域から学校に対する関心が高まり、関連業種からの求人が増加したことも要因と考えられる。

4 コンソーシアムの役割と意識の変容

地域と協働する学習カリキュラムの開発に向けて、高校生と地域課題のマッチングを効果的に行うため、地域、自治体、高等教育機関、地元企業の方を構成員とするコンソーシアムを構築し、3年間活動に取り組んだ。

コンソーシアム委員には、個々のレポートへの助言をはじめ、協力機関の紹介、教科及び学科等横断的な視点から取組など、地域課題の解決に向け、段階的・探究的な学習活動に取り組んだ。3年次には、4学科の生徒と町役場の職員等が協働して、「田布施地域交流館の魅力の向上」に向けた取組やイベント等の企画・立案・運営などの取組は、田布施町の活性化にも寄与した。

将来の地域産業の担い手となるための幅広い知識・技術はもとより、世代を超えて他者と協働して課題を解決できる人材の育成につながったと、コンソーシアム委員からも高い評価を得ている。

以下、生徒、学校からのコンソーシアムとの協働について示す。

(1) 生徒の意見

【成果】

- ・ これまで、地域の方とお話する機会がなかったので、自分たちの意見を伝えることができ、コミュニケーション力や様々な立場の方の視点を学べ、視野を広げることができた。
- ・ 自分たちが挑戦したいことに理解をしてくださり、実現のために力を貸してくださって、商品開発に挑戦することができた。地域の方と関りながら、商品開発をすることによって、田布施町に愛着がわき、「将来、自分も田布施で暮らしてみたい。」と思えるようになった。
- ・ 自分たちの活動を価値づけていただき、自信を持てるようになった。
- ・ コンソーシアム委員の方の姿を見て、卒業後、自分も同じように高校生のサポートをしたいと思えるようになった。
- ・ コンソーシアム委員の方が、地域の様々な方につないでくださり、田布施町の産業を知ることや進路を考えるきっかけにつながった。

【課題】

- ・ コンソーシアムの関わりが、一部の生徒に偏っていたため、学校全体に情報発信が十分ではなかった。学校全体を巻き込めるような仕組みがあれば良いなと思った。
- ・ 委員の方の職業が偏っていたので、自分たちの興味のある分野の方が委員になっていただけるとうれしい。
- ・ 委員の方との意見交換の時間が、本当に少なかったため、もっと意見交換ができる機会があると良いと思う。
- ・ 一緒に活動している委員の方には話しやすかったけれども、あまりいらっしやらない委員の方には話しかけにくかった。

(2) 学校（教員）の意見

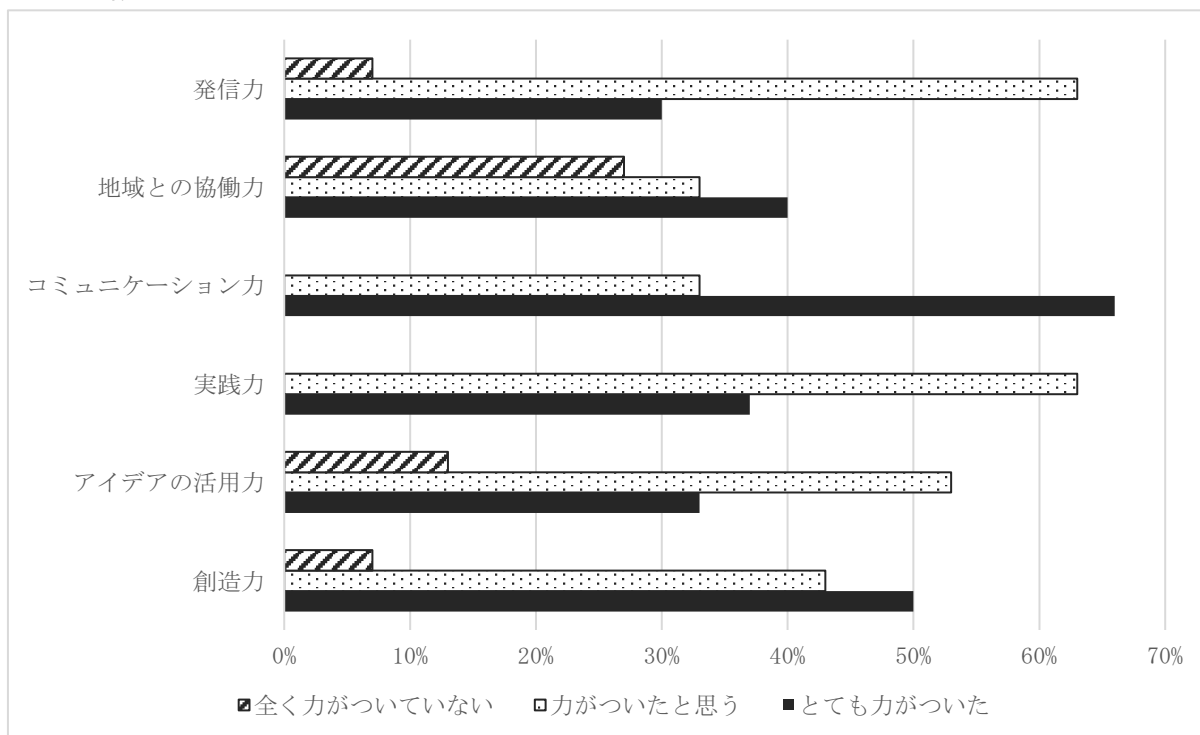
【成果】

- ・ 学科や、生徒あい³委員会などで活動する内容に、アドバイスやサポートをしてくださり、年を重ねるごとに、サポート体制が充実した。
- ・ 生徒の成長を一緒に見守ってくださり、はじめは利点のみしかお話しされてなかったが、回を重ねるごとに、生徒のことを思って厳しい意見もいただけるようになり、生徒の成長につながった。
- ・ 校外の機関との橋渡し役となっただきスムーズな連携を行うことができた。組織として活動を継続していくには、コンソーシアムの組織体制が今後も必要だと感じている。
- ・ 参加した生徒は少人数であったが、会議に参加できたことは大きい。生徒が教員以外の大人と協働することは成長につながった。

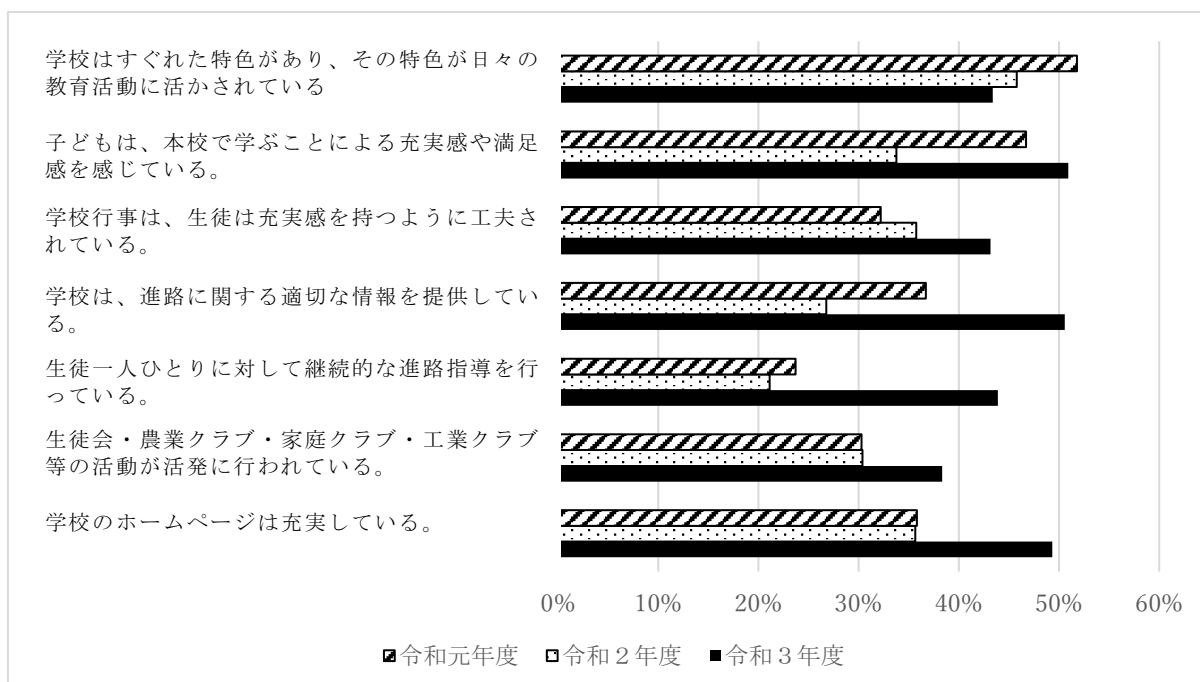
【課題】

- ・ 年に数回の集まりで、こちらからの報告や教授の講演でほぼ会が終了していた。このため、委員との十分や話し合いの時間を設けることができなかった。もっと、委員に活躍していただける時間配分であれば、出席率も高まり、協働学習も活発化したかもしれない。
- ・ 関わりが十分でないと、コンソーシアム委員からの的確なアドバイスが求めにくかった。実際にアンケート結果から、あまり本校の活動を十分に伝えきれていない現状であったと感じた。
- ・ 一部の教員しか、コンソーシアムに関わっていなかったため、学校全体に活動の内容を周知しきれなかった。
- ・ 本事業の担当以外の教員ももっと参加すべきであった。特に普通科教員がもっと参加できれば、研修となり新しい横断的な学習につながったと思う。
- ・ 生徒をコンソーシアム会議に1年目から参加させ、自分たちで発表などをする機会を設定していればもっと効果的であったと思う。外部の人の前で失敗の機会をつくれる良い会だったはずである。

5 保護者による評価



令和3年度：令和元年度入学生保護者「あいキュービック保護者生徒評価表アンケート」より



令和3年度：令和元年度入学生保護者「学校評価アンケート」より

本事業3年目の評価として、令和元年度入学生の保護者を対象に「あいキュービック保護者生徒評価表アンケート」、「学校評価アンケート」を基に検証した。Google フォームを用いた回収率は「あいキュービック保護者アンケート」が50%、「学校評価アンケート」が80%であった。

「あいキュービック保護者生徒評価表アンケート」では、6つの項目を調査し、「コミュニケーション力」について、「とても身に付いた」が一番高かった。さらに、『問題解決のためのチームを作ることができ、リーダーシップをとって

行動できる』と66%の保護者が回答しており、本事業での生徒の成長が、保護者に理解していただけた。

一方で、「とても身に付いた」の割合が、「発信力」では30%、「アイデアの活用力」では33%、「実践力」では37%と、これらの項目は3割程度に留まった。生徒がアイデアを発表や実践する情報発信が、保護者まで届いておらず、取組の発信方法が課題として捉えられる。「学校評価アンケート」において、「学校のホームページは充実している」と49%の保護者が回答していることから、学校HPを活用して、本事業の情報発信に努めたい。

「学校評価アンケート」の中から、3年間で一番上昇した項目は、「子どもは、本校で学ぶことによる充実感や満足感を得ている」である。2年次には、農工祭や修学旅行の中止、企業見学やインターンシップを一部の学科が中止するなど充実感や満足感を得ているが34%であったが、3年次には、課題研究を中心とした地域との連携活動の実践や参加者数を制限しながらも農工祭を実施できたことにより、生徒の活動を保護者が見る機会が設けられたため、3年次には51%となり、17ポイント上昇した。

「学校は、進路に関する適切な情報を提供している」の項目においても、3年次には51%と2年次より改善した。このことから、就職や進学に関する情報について、保護者の関心が高く、「進路情報」や「キャリア教育」について学校からの情報提供がより求められている。卒業生や専門学校、企業などの関わりから生徒が進路を考えるあい³活動を展開したが、将来の進路や、就職に役立つ知識、スキルを身に付けることを要望する声もあり、専門性を高めるとともに、社会人として地域社会でどのように教養を育み活躍していくか、卒業後をイメージできる活動を実践していくことが、今後の課題である。

また、「生徒会・農業クラブ・家庭クラブ・工業クラブなどの活動が活発に行われている」が、3年次では38%に留まった。この背景として、農業クラブ県連盟大会がオンラインでの開催や、家庭クラブの地域連携の活動も一部の役員生徒のみでの活動に留まるなど、コロナ禍の中で活動規模が収縮され、活動の充実感を得られなかったことが原因だと考える。このことから、生徒あい³委員による4学科の連携による情報共有や保護者への発信に取り組みたい。

今後、本校の教育活動を実践していくにあたり、保護者への情報発信や意見交換会の設置、アンケートの実施などにより、活動の普及や充実化を図ることが課題である。